

教 員 の 業 績				
職 名		特任教授	学 位	商学修士
氏 名	カ ナ	アオヤマ カズマサ	役 職 名	学長
	漢 字	青 山 和 正		大学院研究科長
1. プロフィール		慶応義塾大学商学部卒業、慶応義塾大学商学研究科修了		
		中小企業基盤整備機構(旧中小企業振興事業団)入社、調査研究、企業診断・指導等歴任		
		中小企業診断士		
2. 主な担当科目		中小企業論、中小企業経営論、新事業創造論、ベンチャー経営論		
		起業マネジメント		
3. 専門分野		中小企業論、ベンチャー企業論、老舗学、ファミリービジネス		
4. 主な研究テーマ		中小企業経営、起業、老舗企業、中小企業政策に関する研究		
		アジア中小企業(主にベトナム)		
5. 主な研究業績	著書	「47都道府県・老舗百科」丸善出版、2024年1月(編著)		
		「ファミリービジネス白書2015版」同友館、2016年1月(共著)		
		「事業承継で生まれ変わる」日本政策金融公庫著、(株)きんざい、2015年7月(共著)		
		「精解中小企業論」同友館 2011年2月(単著)		
	論文	「ベトナム中小企業政策に関する研究」～ベトナムの中小企業振興施策の現状と課題～成城大学経済研究所研究報告No61、2013年1月		
		「ベトナム中小企業政策の課題に関する考察」富士論叢、2011年11月		
		「起業家の起業行動の分析」(実践経営学会)2011年9月		
		「中小企業の知財戦略構築に関する考察」(日本中小企業学会)2008年9月		
		「事業承継円滑化条件に関する研究」『実践経営』第45号2008年9月		
		「ベンチャーキャピタルの行動と特性」(実践経営学会)2005年9月		
		「ベンチャー企業とビジネスマッチング」(実践経営学会)2004年9月		
	その他の研究活動	「ベトナム刺繍村の実態と課題(ベトナム地場産業研究報告書)」2011年3月		
		「令和3年度、社会貢献事業活動事例集、老舗から学ぶ社会貢献事業」P42 2021年		
		東京都中小企業診断士協会 2022年3月		
6. 所属学会		日本経営診断学会		
7. 主な社会活動、資格、その他		「ものづくり・商業・サービス革新事業委員」全国中央会(平成26～令和5年度)		
		「商業・サービス競争力強化連携支援事業委員」中小企業庁(平成27～令和5年度)		
		IT導入補助金評価委員・中小企業基盤整備機構・鎌倉市他、各種委員		
 東京富士大学				

教 員 の 業 績				
職 名		教授	学 位	修士(応用言語学)
氏 名	カ ナ	アベ マキコ	役 職 名	入試広報委員長
	漢 字	阿部 牧子		
1. プロフィール		イリノイ大学大学院言語学科TESOL専攻 修士課程修了		
2. 主な担当科目		リーディング&ライティング・基礎英語		
3. 専門分野		TESOL・英語教育学		
4. 主な研究テーマ		リメディアル英語教育(学習意欲、動議づけ)		
5. 主な研究業績	論文	「The Effect of Incidental Vocabulary Learning on Partially Known Words」(共著), 日本リメディアル教育学会, 第9巻第2号, 2014年		
		「多読による語彙の習得」(単著), 『富士論叢』第60巻第1号, 東京富士大学学術研究会, 2015年		
		「Vocabulary Learning through Reading」(単著), 東北英語教育学会, 第37号, 2017年, 3月		
		「自己像形成意識と英語学習動機づけ要因の関係」(共著), 中部地区英語教育学会, 第47号, 2018年		
		「英語学習動機づけ要因における自己像形成意識の位置づけ関係」(共著), 『紀要』第24号. 国際教育研究所. 2018年		
		"Reducing English speaking anxiety with artificial intelligence apps"(単著), IATEFL 2019 Conference Selection. International Association of Teachers of English as a Foreign Language. 2020年		
		「英語スピーキング不安を軽減する試みーAI(人口知能)アプリを使って話す機会を増やすー」(単著)『富士論叢』第63巻第1号, 東京富士大学学術研究会, 2022年3月		
	その他の研究活動	「多読による付随的語彙学習の効果」(単独), 日本リメディアル教育学会全国大会, 東京電機大学, 2014年8月		
		"Vocubularly learning through extensive reading" (単独), 12th Annual Cam TESOL Conference on English Language Teaching 2016, National Institute of Education, Phunom Penh, Cambodia, 2016年2月		
		「英語授業分析の手法と展開(質的研究, 質的研究から量的研究へ)」(共同), 日本リメディアル教育学会全国大会, 大阪国際大学, 2016年8月.		
		「英語授業学研究の視点から日本人大学生の英語・英語学習に対する意識を分析する」(共同), 日本リメディアル教育学会関東・甲信越支部大会, 神田外語, 2017年2月		
		「自己像形成意識と英語学習動機づけ要因の関係ー英語授業学研究の視点からー」(共同), 第47回中部地区英語教育学会, 信州大学, 2017年6月		
		「人口知能とのコミュニケーションの試み」(単独)日本リメディアル教育学会全国大会, 創価大学, 2018年8月		
		Communication with Artificial Intelligence Apps (単独) IATEFL 53rd Annual Conference, International Association of Teachers of English as a Foreign Language, Acc Liverpool, UK, 2019年4月		
		「Increasing Autonomy through Technology」(単独), 日本リメディアル教育学会第11回関東・甲信支部大会, 2023年3月		
6. 所属学会		大学英語教育学会, 日本リメディアル教育学会, 全国英語教育学会, 東北英語教育学会, 中部地区英語教育学会		
7. 主な社会活動、資格、その他		神田外語キャリアカレッジTEMPORARY EMPLOYEE		
東京富士大学				

教員の業績				
職 名		教 授	学 位	文学修士
氏 名	カ ナ	アミモト ナオコ	役 職 名	
	漢 字	網本 尚子		
1. プロフィール		お茶の水女子大学大学院人間文化研究科(博士課程)比較文化学専攻単位取得後退学		
2. 主な担当科目		文学、文章表現法		
3. 専門分野		中世文学、能・狂言		
4. 主な研究テーマ		狂言と中世の風俗や文芸との関係について		
5. 主な研究業績	著書	『What is 狂言 改訂版』檜書店、2017(共著)		
		『能・狂言を学ぶ人のために』世界思想社、2012(共著)		
		『新版日本語表現法』アイ・ケイコーポレーション、2012(共著)		
		『ビギナーズ・クラシックス 謡曲・狂言』角川学芸出版、2010		
		『狂言三人三様 野村萬斎の巻』岩波書店、2003(共著)		
		『狂言ハンドブック』三省堂、1995(共著)		
	論文	「新作狂言と狂言普及活動に関する現状と展望」『能楽の現在と未来』(能楽研究叢書5)所収、法政大学能楽研究所、2015、11		
		「狂言における伯父の特徴と役割」『富士論叢』第58巻1号、2013、11		
		「狂言「宗論」試考」『富士論叢』第57巻1号、2012、11		
		「狂言に描かれた花ー「真奪」の考察を中心として」『富士論叢』第56巻1号、2011、11		
		「狂言「朝比奈」と閻魔物狂言形成に関する一考察」『富士論叢』第55巻1号、2010、12		
		「夫婦物狂言にこめられた意図ー「岡太夫」「髭櫓」を中心として」『お茶の水女子大学国語国文学会 国文』第114号、2010、12		
		「貞成のもとを訪れた芸能者たち」『看聞日記と中世文化』所収、森話社、2009		
		(研究ノート)「伯父が登場する狂言」『富士論叢』第52巻1号、2007、9		
		「狂言「文蔵」における二つの趣向」『富士論叢』第50巻2号、2006、3		
		「連歌を詠む狂言」『隔月刊 文学』第3巻2号、2002、3～4		
	その他の研究活動	「狂言と連歌の紐帯」『国文学』第43巻14号、1998、12		
		国立能楽堂公演プログラム、野村狂言座公演パンフレット等に演目解説執筆多数		
		国立能楽堂公開講座、国立能楽堂定例公演、ござる乃座、狂言の和らい等、解説出演多数		
		狂言の現代語訳字幕の作成 (経済産業省関東経済産業局「平成29年度商業・サービス競争力強化連携支援事業(新連携支援事業)」に採択された「伝統芸能における機動性の高い舞台解説の開発・事業化」)		
		能楽対談「確信を持って」(野村萬斎との対談)『能楽タイムズ』2019、1		
		狂言評「国立能楽堂新作狂言「鮎」」『能楽タイムズ』2018、2		
6. 所属学会		中世文学会、楽劇学会、能楽学会、お茶の水女子大学国語国文学会		
		芸能史研究会		
7. 主な社会活動、資格、その他		令和4年3月まで日本芸術文化振興会プログラムオフィサー(伝統芸能分野) 令和4年度国立劇場事業調査委員		
 東京富士大学				

教員の業績				
職名		教授	学位	修士(経営学)
氏名	カナ	インヅカ カズヤ	役職名	
	漢字	石塚 一彌		
1. プロフィール		早稲田大学政治経済学部政治学科卒業後、会計の道へ 公認会計士試験合格後、外資系と国内の監査法人勤務を経て、2006年より現職		
2. 主な担当科目		会計学総論 税務会計 会計監査論 会計職業倫理		
3. 専門分野		監査論 管理会計		
4. 主な研究テーマ		非営利組織の会計・税務		
5. 主な研究業績	著書	非営利組織の会計・税務(共著)		
	論文	品質管理と監査報酬		
		内部統制報告制度の導入と問題の所在 -監査人の立場からの一考察-		
	その他の研究活動			
6. 所属学会		日本会計研究学会 日本監査学会 日本内部統制研究学会 国際公会計学会		
7. 主な社会活動、資格、その他		日本高等教育評価機構委員(自2014年4月至2015年3月、自2016年4月至2017年3月、自2019年4月至2025年3月(予定)) 公認会計士 税理士		


東京富士大学

教員の業績				
職 名		教授	学 位	修士(心理学)
氏 名	カ ナ	イナミ カズエ	役 職 名	
	漢 字	伊波 和恵		
1. プロフィール	同志社大学文学研究科心理学専攻 博士課程後期課程 満期修了			
	文京学院大学人間学部助手等を経て現職			
	臨床心理士、公認心理師			
2. 主な担当科目	キャリア発達心理学、メンタルヘルスマネジメント、心理学I・II、経営心理学研究法			
	プロフェッショナル・セミナー、専門演習			
3. 専門分野	生涯発達心理学(老年期)・感情心理学・臨床心理学			
4. 主な研究テーマ	成人期以降のメンタルヘルス(学生相談・ライフイベントとしてのお墓選び・心理教育)			
	勤労者におけるワークファミリーコンフリクト(育児・介護の同時発生状況の現状調査)			
	認知症者の心理的ケア手法の開発(ライフレビュー・回想・情動活性化)			
5. 主な研究業績	著書	「高齢期の発達科学」新曜社, 2024 (共著)		
		「ケアの現場・地域で活用できる回想法実践事例集」中央法規, 2022 (共編著)		
		「マネジメントの心理学ー産業・組織心理学を働く人の視点で学ぶ」ミネルヴァ書房, 2014 (共編著)		
		「心理学概論 第2版」ナカニシヤ出版, 2014 (共著)		
		「人間関係とコミュニケーション」ミネルヴァ書房, 2012(共著)		
		「ゼロから学ぶ経営心理学入門」学文社, 2011(共著)		
		「Q&Aでわかる回想法ハンドブックー「よい聴き手」であり続けるためにー」中央法規出版, 2011(共編著)		
		「化粧セラピー」日経BP社, 2010 (共著)		
		「発達心理学ー一人は関わりながら発達するー」ミネルヴァ書房, 2009 (共著)		
		「心理学概論」ナカニシヤ出版, 2006 (共著)		
		「ライフレビューブックー高齢者の語りの本づくりー」弘文堂, 2005 (共著)		
	論文	「三陸思い出パートナープロジェクトの実際と多面的効果 平成28～令和2年度科学研究費補助金基盤研究(C)ー一般(課題番号16K04214)研究成果報告書」, 2021(共同)		
		「長く働くためのワークライフバランス(1)ー仕事観と家族の関わり」日本心理学会第83回大会(立命館大学), 2019(共同)		
		「長く働くためのワークライフバランス(2)ー小学生のいる家庭の場合」日本心理学会第83回大会(立命館大学), 2019(共同)		
		「就労者のワークファミリーコンフリクト: ワークライフバランスに関するインタビュー調査」日本心理学会 第82回大会(東北大学), 2018 (共同)		
		小規模大学における「学生生活意識調査」活用の研究(2)ー学生生活上の困難のタイプと相談希望との関連性ー日本学生相談学会第34回大会(成蹊大学), 2016 (共同)		
		「『大学生版発達障害スクリーニング・テスト(DDSTU)』の尺度開発に向けての予備的研究 発達障害傾向, 気分ならびに悩みに関する学部間の比較検討を中心に」『富士論叢』 60, 2016 (共著)		
		「仕事・育児・介護の三者間のワーク・ファミリー・コンフリクト」『実践女子大学紀要』 11, 2015(共著)		
		「大学生における「メンタルヘルス調査」(1) 5年間のデータによる学年推移分析」『富士論叢』 58, 2014 (共著)		
		「大学生における「メンタルヘルス調査」(2) 精神健康度と悩みの分析より相談サービスを考える」『富士論叢』 58, 2014 (共著)		
6. 所属学会	日本心理学会・日本発達心理学会・日本感情心理学会・日本心理臨床学会・日本健康心理学会			
	日本老年社会科学会・認知症ケア学会・日本応用心理学会・関西心理学会・日本学生相談学会			
	組織学会・日本臨床心理士会・東京都公認心理師協会			
7. 主な社会活動、資格、その他	臨床心理士、公認心理師			
	ふじみ野市保健センター(発達発達相談員)・東京都スクールカウンセラー			
 東京富士大学				

教員の業績				
職名		専任講師	学位	修士(体育科学)
氏名	カナ	イノウエ コウト	役職名	
	漢字	井上 航人		
1. プロフィール		日本体育大学大学院 体育科学研究科 博士前期課程(修士)修了		
2. 主な担当科目		健康と運動Ⅰ・Ⅱ、健康と運動Ⅲ・Ⅳ 基礎演習Ⅰ・Ⅱ、キャリアデザイン		
3. 専門分野		スポーツ教育学、体育科教育学		
4. 主な研究テーマ		スポーツ教育、健康教育 空手道		
5. 主な研究業績	著書			
	論文	「小学校におけるフラッグフットボールの授業研究」2015,共著		
		「武道必修化に至るまでの学習指導要領の変遷」2013,単著		
その他の研究活動				
6. 所属学会		日本スポーツ教育学会		
7. 主な社会活動、資格、その他		全日本空手道連盟錬武会東京都本部 理事・評議員および東京都本部事務局次長 第54,55,56,59,60,61回 全国防具付空手道選手権大会 役員兼審判員 全日本空手道連盟錬武会三段、講道館柔道初段、全日本スキー連盟検定2級		


東京富士大学

教員の業績

職 名		特任教授	学 位	文学修士
氏 名	カ ナ 漢 字	ウキヤ シュウイチ 浮谷 秀一	役 職 名	学部長 図書館長・学生相談室長
1. プロフィール		日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士課程前期修了 明星大学人文学研究科心理学専攻博士課程後期単位取得満期退学 東京富士大学 図書部長、学生部長、学務部長等歴任		
2. 主な担当科目		心理学Ⅰ・Ⅱ、基礎演習(再履修)Ⅰ・Ⅱ		
3. 専門分野		パーソナリティ(性格)心理学、感情心理学、実験心理学		
4. 主な研究テーマ		EQ (Emotional Quotient: 感情指数)、血液型性格判断、パーソナリティと県民性		
5. 主な研究業績		著書 『人間関係の心理学』(監修) メイツユニバーサルコンテンツ 2020 『シリーズ心理学と仕事9 知能と性格心理学』(編著) 2019 『日本パーソナリティ心理学会20年史』(共編) 福村出版 2015 『クローズアップ教育』(共編) 福村出版 2015 『クローズアップメディア』(共編・共著) 福村出版 2015 『心理学事典』(共著) 平凡社 2013 『パーソナリティ心理学ハンドブック』(共編・共著) 福村出版 2013 『人間関係の心理学』(共同監修) メイツ出版 2012 『応用心理学事典』(共著) 丸善 2007 『心理学－行動の科学－』(共著) 東京教学社 2006 『こころの発達と学習の心理』(共著) 啓明出版 2005 『教育カウンセリング論』(共著) 日本文化科学社 2003 『ビジネスの心理学』(共著) 八千代出版 2000 『青年心理学トウディ』(共著) 福村出版 2000 『現代のエスプリー性格のための心理学－』(共著) 至文堂 1998 『NEW心理学アспект』(共著) 福村出版 1997 論文 「血液型気質相関説」の史的評論－目黒宏次・澄子と能見正比古の構想を中心に－(共著)応用心理学研究33－2 2007 「血液型気質相関説」の史的評論－原来復の時代から古川竹二の時代まで－(共著)応用心理学研究33－1 2007 EQ測定のための基礎的研究－表情認識を用いた共感性との関係－(共著)富士論叢51－1 2006 EQ測定のための基礎的研究－表情認識を用いた共感力測定－(共著)富士論叢48－2 2003 EQ概念に関する基礎的研究(共著)富士論叢45－2 2000		
6. 所属学会		日本心理学会、日本パーソナリティ心理学会、日本応用心理学会、日本感情心理学会、 日本発達心理学会、日本教育心理学会、産業・組織心理学会、日本社会心理学会、 日本行動分析学会、日本マイクロカウンセリング学会		
7. 主な社会活動、資格、その他				

教員の業績				
職 名		教授	学 位	経営学修士
氏 名	カ ナ	エンジョウジ タカヒロ	役 職 名	
	漢 字	円城寺 敬浩		
1. プロフィール	明治大学経営学部経営学科卒業			
	明治大学大学院経営学研究科経営学専攻博士前期課程修了			
	明治大学大学院経営学研究科経営学専攻博士後期課程単位取得退学			
2. 主な担当科目	(学部) 経営学／専門演習Ⅰ／専門演習Ⅱ／プレ専門演習			
	(大学院) 演習Ⅰ／企業論研究			
3. 専門分野	戦略経営論(Strategic management)／企業論／「企業と社会」論(Business & Society)			
4. 主な研究テーマ	コーポレート・ガバナンス／EU企業／日本の経営／CSR／コーポレート・レピュテーション			
5. 主な研究業績	著書	経営戦略学会編『キーワードからみる経営戦略ハンドブック』同文館出版, 2023年(共著).		
		『現代環境経営要論』創世社, 2021年(共著).		
		『よくわかるコーポレート・ガバナンス』ミネルヴァ書房, 2019年(共著).		
		『EU企業論 体制・戦略・社会性』中央経済社, 2008年(共著).		
		『コーポレート・ガバナンスの国際比較-米, 英, 独, 仏, 日の企業と経営-』中央経済社, 2006年(共著)		
		『組織と戦略』文眞堂, 2004年(共著).		
	論文	「産業財団(Industrial foundation)の研究」企業経済研究会1月例会(明治大学), 2024年1月.		
		「『財団資本主義』の意義と限界-北欧・デンマークを中心にして-」日本経営学会第93回大会(関西大学), 2019年9月.		
		「北欧のCSRとコーポレート・ガバナンス-デンマークを中心にして-」日本経営学会第91回大会(岡山大学), 2017年9月.		
		「公益信託マイクロソフト知的財産研究助成基金 助成報告書」第10巻, 2014年12月.		
		The changing and everlasting aspects of Japanese CSR, IFSAM 2014. (Co-Author).		
		How a corporate reputation Impacts investment' s behavior, The Fuji Ronso, Vol, 57,2013.(Co-Author).		
		Reputation management in Japan, IAMB 2011, California (アメリカ). (Co-Author) .		
		「デンマークの雇用政策に関する一考察-CSRの視点から-」『経営論集』, 明治大学経営学研究所, 第57巻4号, 2010.		
		「委員会設置会社の企業統治に関する一考察-その有効性と限界-」『経営論集』, 同上, 第57巻3号, 2010.		
		Japanese Compassion and Japanese CSR, AOM 2010(アメリカ経営学会), Montreal (カナダ).		
		-2009年以前は省略／学会報告も含む-		
	その他の研究活動	経営哲学学会第32回全国大会(慶應義塾大学)・コメンテーター, 2015年9月.		
		工業経営研究学会第29回全国大会(北海学園大学)・コメンテーター, 2014年9月.		
6. 所属学会	【国内】日本経営学会／組織学会／経営戦略学会／経営哲学学会／経営行動研究学会／工業経営研究学会			
	【海外】AOM(アメリカ経営学会)等			
7. 主な社会活動、資格、その他	明治大学商学部兼任講師			

東京富士大学

教員の業績

職 名		准教授	学 位	
氏 名	カ ナ	オオヤマ トシエイ	役 職 名	産学連携室長
	漢 字	大山 利栄		キャリア支援課主任
1. プロフィール		1988年-2010年 (株)テー・オー・ダブリュー(東証一部上場) 2003年より取締役		
		2012年-2014年 東京富士大学 キャリア開発センター進路支援課課長 兼 講師		
		2015年- 現職		
2. 主な担当科目		イベントプロデュース論、イベント企画・演出、イベント映像		
		イベント管理会計、イベント実習、専門演習		
3. 専門分野		イベント学、イベント演出、プロモーション		
4. 主な研究テーマ		(1) イベント演出研究		
		(2) イベント構造研究		
5. 主な研究業績	著書	「イベント企画・計画の理論と実際」 リベルタス・クレオ(2014)		
		「イベント演出の実際」 リベルタス・クレオ(2014)		
	論文	「イベント機能の研究 ～特に地域活性化へのイベントプロデュース機能～」		
		「日本高齢社会の生活研究 第3号」2008		
		「イベントキャリアの形成」 「イベント研究第5号」2012		
		「イベント構造6W2Hの工学的検証」 「イベント研究第6号」2014		
		「イベント演出の視点」 「イベント研究第7号」2014		
		「地域間連携とイベントの機能【機会財の創出】」 「イベント研究第8号」2016		
		「イベントの基本要素『6W2H』の再深証」 「イベント研究第9号」2018		
		「イベントのメディアとしての機能における特性と意義」 「イベント研究第10号」2019		
		「ラグビーワールドカップはイベントとして成功したのか」 「イベント研究第11号」2020		
		「イベントとバーベキューの類似性と相違性についての検証」 「イベント研究第12号」2021		
「日本最古のイベント『結婚式』についての検証」 「イベント研究第13号」2021				
「近年多発する自然災害に対応するイベントの一考察」 「イベント研究第15号」2023				
6. 所属学会				
7. 主な社会活動、資格、その他		(一社)日本イベント協会 関東本部理事		
		(一社)日本イベント協会 イベント総合研究所 主席研究員		
		(特・非) 環境維新隊東京ユネスコクラブ 相談役		
		(公財)日本エイズ予防財団 助成事業選考委員		
		イベント業務管理者		

東京富士大学

教員の業績

職 名		准教授	学 位	修士（商学）
氏 名	カ ナ 漢 字	オガワ タツヤ 小川 達也	役 職 名	
1. プロフィール		日本大学大学院商学研究科経営学専攻博士後期課程単位取得後退学		
		日本大学商学部助手、東京富士大学経営学部専任講師を経て現職		
		【非常勤講師歴】 作新学院大学経営学部、神奈川工科大学情報学部、ヒューマンアカデミービジネススクール MBAプログラム、文化学園大学大学院生活環境学研究科被服学専攻博士前期課程 グローバルファッション専修、実践女子大学人間社会学部で非常勤講師を歴任		
2. 主な担当科目		経営学 経営戦略論Ⅰ・Ⅱ プロフェッショナル・セミナーⅠ・Ⅱ 基礎演習Ⅰ・Ⅱ		
3. 専門分野		企業価値創造経営 経営戦略 国際経営 経営教育 地域デザイン		
4. 主な研究テーマ		企業価値創造経営に関する理論とモデルの研究		
		「おもてなし」のサービス戦略に関する研究		
5. 主な研究業績	著書	『経営学の新展開』税務経理協会、2007年（共著）		
		『環境マネジメントハンドブック』日本工業新聞社、2004年（共著）		
	論文	「Web機能を補完するコールセンターの戦略的役割に関する研究」（査読付き）社団法人韓国電子商取引学会『電子商取引学会誌』第15巻 第1号、pp.91-98、2014年（単著）		
		「企業不祥事のメカニズムと経営教育の課題—負の組織学習の存在とその克服に向けて—」（査読付き）日本経営教育学会『経営教育研究』第12巻 第1号、pp.57-68、2009年（単著）		
	その他の研究活動	地域デザイン学会全国合同地域部会第3回研究会「地域デザイン戦略におけるアウトレットモールの役割について—ふかや花園プレミアム・アウトレットを中心に—」2023年1月21日、専修大学神田キャンパス（単独）		
		地域デザイン学会第3回戦略デザインフォーラム「地域デザイン戦略論考—デザインとは何か—」2021年7月17日、浦和コミュニティセンター（単独）		
		地域デザイン学会第8回全国大会（戦略デザインフォーラム理論報告）「コンテキスト転換による地方創生の戦略デザイン」2019年8月31日、東海大学代々木キャンパス（単独）		
経営行動研究所第6回研究会「一流企業における不正・違法行為の長期化—健全な経営行動に應えるエレメンツは何か—」2019年6月1日、日本大学経済学部（単独）				
6. 所属学会		【米国】Academy of Management (AOM)、Strategic Management Society (SMS)		
		【韓国】韓国経営教育学会、韓国電子商取引学会		
		【日本】経営行動研究学会、経営哲学学会、国際ビジネス研究学会、産業・組織心理学会組織学会、地域デザイン学会、日本経営学会、日本マネジメント学会		
7. 主な社会活動、資格、その他		一般社団法人地域デザイン学会 戦略デザインフォーラム事務局長		
		中央職業能力開発協会 ビジネス・キャリア検定試験「経営戦略分野」委員会委員		
		公益財団法人ダイオーズ記念財団 奨学金・助成 選考委員会委員		


東京富士大学

教員の業績				
職 名		教授	学 位	修士(理工学研究科)
氏 名	カ ナ	オニキ カズナオ	役 職 名	
	漢 字	鬼 木 一 直		
1. プロフィール		東京工業大学理学部学士、東京工業大学理工学研究科修士課程卒 ソニー(株)開発マネージャ、東京富士大学准教授を経て、東京富士大学教授 大学広報室長、メディアセンター部長、図書館長、入試部長、IR推進室長などを歴任		
2. 主な担当科目		経営情報学、情報学、プロフェッショナル・セミナー 専門演習、論文指導		
3. 専門分野		情報システム学、経営情報学、IRデータ解析		
4. 主な研究テーマ		情報システム学、経営情報に関する基礎的研究、その他各種情報に関する研究 教育論、幼児教育研究、幼児算数研究		
5. 主な研究業績	著書	「パパだからできる子育て術～元ソニー開発マネージャが教えるはじめてでも楽しい育児の秘訣71」 幻冬舎 2022 単著		
		「できる社会人になる子育て術～元ソニー開発マネージャが教える社会へ踏み出す力の伸ばし方 文庫版」 幻冬舎 2022 単著		
		「できる社会人になる子育て術～元ソニー開発マネージャが教える社会へ踏み出す力の伸ばし方」 幻冬舎 2020 単著		
	論文	「社会人基礎力の向上に与える状況的学習の効果 ～レイヴ&ウエンガー著”Situated Learning”の 考察から～」 富士論叢 第62巻 第1号 2018 単著		
		「旅育がもたらす社会的能力向上に関する分析 ～国際化社会で成功するための施策と海外旅行の 効果～」 富士論叢 第62巻 第1号 2018 単著		
		「就職活動のフロー体験化を促進するメソッド開発～「自己分析」「企業研究」におけるゲーミファイケー ションの実践～」 富士論叢 第60号 第1号 2015 共著		
		「大学生の能力開発のためのアーキテクチャ設計に関する基礎的研究」 富士論叢 第59巻 第1号 2014 共著		
		「A 12x5 Two-Dimensional Optical I/O Array for 600Gb/s Chip-to-Chip Interconnect in 65nm CMOS」 国際固体素子回路会議 (ISSCC 2014) 共著		
		「Reliability of Organic Membrane Structure Embedded in Silicon-interposer Chip」 マイクロプロセス・ ナノテクノロジー国際学会 (MNC 2011) 共著		
		「High-performance blazed GxL device for large-area laser projector」 国際光工学会、(SPIE 2006) 共著		
		「Magnetoresistive Thin Film Head for Perpendicular Magnetic Recording」 垂直磁気記録国際会議 (PMRC 1994) 共著		
		「液体 ³ Heの第ゼロ音波吸収における量子効果」 日本物理学会、1991 共著		
		「J-T液化機を組み込んだ核断熱消磁装置」 日本物理学会、1991 共著		
	学会発表	「子どもの思考を広げる学習 ～社会で活躍するために必要な教育とは～」 未来の学習コンテンツ EXPO、2023 単著		
		「プログラミング教育で何を学ぶのか? ～情報の活用の仕方と子どもの思考を広げるための教育～」 世田谷区小学校 家庭教育学級講演会、2021 単著		
		「学生の質向上のための内的環境分析 ～出願までのプロセスと入学後のPROGテスト分析結果との 関係性～」 日本教育情報学会、2020 単著		
		「中国における日本文化の浸透に関する一考察～中国人の尋常小学算術体験を手がかりとして」 国際交流研究会 in China、2019 共著		
		「状況的学習の主体性向上に関する分析～授業外学習の促進について～」 日本教育情報 学会、2017 単著		
		「アウトバウンドが増加しない原因に関する情報分析と旅育の効果」 観光情報学会、2017 単著 観光情報学会第15回研究発表会優秀賞受賞		
		「経営学部の教育カリキュラムにおける状況的学習の重要性 ～企業が経営学士に求める能力との ギャップに関する研究～」 日本教育情報学会、2016 共著		
6. 所属学会		日本教育情報学会、観光情報学会 日本乳幼児教育学会、日本保育学会		
7. 主な社会活動、資格、その他		公益社団法人私立大学情報教育協会 サイバーFD研究員 ICTプロフィシエンシー検定協会公認試験官 有機溶剤作業主任者 特定化学物質等作業主任者 局所排気装置等定期自主点検者 特定高圧ガス取扱主任者 全日本スキー連盟準指導員 全日本スキー連盟級別テストC級検定員		

東京富士大学

教員の業績

職 名		特任教授	学 位	経済学士
氏 名	カ ナ	カサハラ コウイチ	役 職 名	イベント社会工学研究所所長
	漢 字	笠原 幸一		
1. プロフィール		立教大学経済学部経営学科卒 株式会社オリエンタルランド元執行役員、株式会社フォトワークス元代表取締役会長		
2. 主な担当科目		サービス産業論、専門演習、イベント実習		
3. 専門分野		イベント、空間エンターテインメント、マーケティング、観光、コンテンツビジネス、サービス・マネジメント等		
4. 主な研究テーマ		空間エンターテインメント研究、地域活性化とイベント・マーケティング研究		
5. 主な研究業績	著書			
	論文	「コロナ禍におけるイベント業界の現況と今後の視点」イベント研究第12号2021単著		
		「東京オリンピック開会式プログラム・デザインの研究」イベント研究第13号2021単著		
		「大阪・関西万博の成功の鍵とは ～EXPO'70から55年 その変遷を検証する～」イベント研究第14号2022単著		
		「持続可能なスポーツイベントへの挑戦『世界初の試みマイボトルマラソン』湘南国際マラソンからの考察」イベント研究第15号2023単著		
	その他の研究活動	「東京オリンピック開会式プログラム・デザインの研究」発表 第3回イベント研究発表大会		
「大阪・関西万博の成功の鍵とは ～EXPO'70から55年 その変遷を検証する～」発表 第4回イベント研究発表大会				
「持続可能なスポーツイベントへの挑戦『世界初の試みマイボトルマラソン』湘南国際マラソンからの考察」発表 第5回イベント研究発表大会				
6. 所属学会		日本イベント協会イベント総合研究所、日本イベント学会		
7. 主な社会活動、資格、その他	公益社団法人日本アドバタイザーズ協会理事・セミナー委員長(2008年～2017年)			
	JAA広告論文審査員・JAA実践広告塾座長(2009年～2017年)			
	広告電通賞新聞部門審査員(2007年～2017年)			
	フジサンケイグループ広告賞電波部門審査員(2010年～2017年)			
	ACC賞マーケティング・エフェクティブネス部門審査員(2014年)			
	第9回・第12回民放連日本放送大賞中央審査員(テレビ番組部門最終審査)			
	公益社団法人日本観光振興協会双方向交流促進委員会委員(2014年～2017年)			
	観光立国推進協議会委員(2014年～2016年)			
	国内旅行業取扱管理者資格(国家試験)、第5回ぴあフィルムフェスティバル入選、全日本ビデオコンテスト優秀賞(朝日新聞社主催)			

東京富士大学

教員の業績				
職名		特任教授	学位	商学士
氏名	カナ	カミジョウ ノリオ	役職名	新学部設置準備室長
	漢字	上條 典夫		
1. プロフィール		早稲田大学商学部卒業		
		電通入社		
		電通執行役員		
2. 主な担当科目		マーケティング論		
		プロフェッショナル・セミナー 専門演習		
3. 専門分野		マーケティング論、広告宣伝論、イベント論、消費者分析論など		
4. 主な研究テーマ		実践マーケティングの研究、		
		スポーツ、音楽などのコンテンツにおけるイベントの意義研究		
5. 主な研究業績	著書	ソーシャル消費の時代(講談社)		
		スポーツ経済効果で元気になった街と国(講談社新書)		
		現代消費のニュートレンド(宣伝会議)		
	論文	日経新聞経済教室(社会を意識した消費行動分析)		
		日経新聞経済教室(高齢社会の実践を映す世代論)		
	その他の研究活動			
6. 所属学会		日本広告学会		
7. 主な社会活動、資格、その他		経済同友会 前幹事		
		経済産業省産業構造部会前委員		


東京富士大学

教員の業績				
職 名		教 授	学 位	学士(工学)
氏 名	カ ナ	キタハラ ユタカ	役 職 名	学務部長、教育支援委員会委員長
	漢 字	北原 隆		イベント社会工学研究所副所長
1. プロフィール		東京都立大学工学部建築工学科卒 1987年～1990年 乃村工芸社 デザイナー 1995年～2002年 ソニーミュージック デザイナー 1990年～アトリエかたくりこ代表所長 2020年～現職		
2. 主な担当科目		イベント学Ⅰ・Ⅱ、エンターテインメントイベント論 イベント実習、演習、専門演習		
3. 専門分野		イベント計画学		
4. 主な研究テーマ		搬入口計画およびイベント搬入計画 イベント会場のインフラ計画		
5. 主な研究業績	論文	「イベントにおける「ディレクター」職能の考察」 イベント研究第6号 2015単著		
		「展示会におけるボックスステージツアーの実際とその意義」 イベント研究第7号 2016単著		
		「導線計画から見たディズニーランド考」 イベント研究第7号 2016単著		
		「回遊型アトラクションの建築計画的考察」 イベント研究第7号 2016単著		
		「搬入と搬入口の考察」 イベント研究第8号 2017単著		
		「日本の劇場・ホールがかかえている問題点」の再考」 イベント研究第8号 2017単著		
		「学問分野としての「イベント計画学」の必要性和その対象分野についての考察」 イベント研究第9号 2018単著		
		「劇場・ホールにおける搬入口周りの、利用者向け情報サービスの現状と向上についての考察」 イベント研究第9号 2018単著		
		「イベント計画学各論「アトラクションとしての迷路」についての考察」 イベント研究第10号 2019単著		
		「オープンスペース計画におけるイベントインフラ問題についての考察」 イベント研究第11号 2020単著		
		「学問としてのイベントの意義～東京富士大学イベント学部設立に向けての私案～」 イベント研究第12号 2020単著		
		「イベント学の構築についての考察」 イベント研究第14号 2022単著		
	「防災計画面から考えた空地の地域イベント活用の有効性について」 イベント研究第15号 2023単著			
	その他の研究活動	論考「イベント計画学の立場からみた搬入口および搬入経路の分析」 Event BizVol.5 2016年単著		
		首都大学工学部建築学科 特別講義 「イベント計画学概論とその実例」 2017年		
連載「イベント搬入の罨」日本劇場技術者連盟誌 2018年から 単著				
論考「搬入におけるトラップ(障害)とバリアフリー化について」 Event BizVol.28 2022年単著				
6. 所属学会		日本建築学会、イベント学会、アートマネジメント学会		
7. 主な社会活動、資格、その他		IESA国際エキジビッドシステム協会 理事長、(一社)LED光源普及開発機構 理事 (一社)劇場技術者連盟 理事 搬入口研究部会 部会長 (一社)イベント協会 イベント総合研究所 主席研究員 一級建築施工管理技士、第二種電気工事士、LEDアドバイザー1級、食品衛生責任者、防火防災管理 フォークリフト、高所作業車、フルハーネス、テールゲートリフター		

東京富士大学

教員の業績

職 名		専任講師	学 位	修士(比較文化)	
氏 名	カ ナ 漢 字	キムラ ナオキ 木村 直樹	役 職 名		
1. プロフィール		国際基督教大学 (ICU) 教養学部語学科卒、ICU大学院比較文化研究科修了 ワシントン大学大学院言語学科留学 (2007-2008)、東北大学大学院文学研究科満期退学			
2. 主な担当科目		基礎英語 I・II、英会話 I・II、基礎演習 I・II			
3. 専門分野		言語学、第2言語習得理論			
4. 主な研究テーマ		第1言語・第2言語の認知処理ストラテジー 日・英語副詞の統語構造上の分布			
5. 主な研究 業績		著書			
		論文	Emura, K., Kimura, N., Lupsa, C.D., Kim, J., Yamaguchi, S., Hagiwara, H. & Yusa, N., (2014). On the Acquisition of Noun-Noun Compounds in Japanese. 東北大学国際文化研究, 20, 17-29.		
		Yusa, N., Koizumi, M., Kim, J., Kimura, N., Uchida, S., Yokoyama, S., Miura, N., Kawashima, R., and Hagiwara, H. (2011). Second-language Instinct and Instruction Effects: Nature and Nurture in Second-language Acquisition. Journal of Cognitive Neuroscience, 23, 2716-2730.			
		Kim, J., Koizumi, M., Ikuta, N., Fukumitsu, Y., Kimura, N., Iwata, K., Watanabe, J., Yokoyama, S., Sato, S., Horie, K., and Kawashima, R (2009). Scrambling Effects on the Processing of Japanese Sentences: An fMRI Study. Journal of Neurolinguistics, 22, 151-166.			
		Kimura, N. (2009). Raising-to-object in Japanese and the Role of Topic/Nominative Case Markers in the Cognitive Processing. IEICE Technical Report, 108, 91-94.			
		Koizumi, M., Kimura, N., and Kim, J. (2009). Syntactic Positions of Arguments in Japanese Clause Structures: A Psycholinguistic Perspective. An Enterprise in the Cognitive Science of Language: A Festschrift for Yukio Otsu, 481-494.			
		Kimura, N. (2008). Predicate Fronting, (Non)-Agentive Subject Positions, and Cyclic Linearization in Japanese. University of Washington Working Papers in Linguistics, 25, 1-30.			
		Kimura, N., Kim, J., and Koizumi, M. (2005). Sentence Processing and Phrase Structural Determinacy of Aspect in Japanese. Lexicon Forum, 1, 133-161.			
6. 所属学会		日本言語学会、言語科学会、全国英語教育学会、日本語用論学会			
7. 主な社会活動、資格、その他					


東京富士大学

教員の業績				
職名		専任講師	学位	修士(国際交流)
氏名	カナ	クロサワ アイミ	役職名	学生会館館長補佐
	漢字	黒澤 愛美		
1. プロフィール		韓国国民大学大学院国際地域学科博士課程単位取得後退学 東京富士大学非常勤講師を経て現職		
2. 主な担当科目		国際関係論、多文化理解(韓国文化)、韓国語、基礎演習		
3. 専門分野		国際関係論、韓国語教育		
4. 主な研究テーマ		北東アジアの国際関係、日韓関係		
5. 主な研究業績	著書			
	論文	「日韓共同宣言の背景と今日的意義—歴史問題に着目して—」『富士論叢』第65巻、東京富士大学経営学部、2024年(単著)		
		「Competing Memory of Dokdo / Takeshima」2012年(単著)		
	その他の研究活動	「日韓共同基地村現地調査 韓国安亭里基地村—基地村と女性たちの過去・現在」『季刊戦争責任研究』第90号、日本の戦争責任資料センター、2018年(単著)		
		「戦時性暴力被害者証言の信頼性・重要性と、検証の方法論」日本オーラル・ヒストリー学会第15回大会、近畿大学、2017年(単独)		
6. 所属学会		日本オーラル・ヒストリー学会、地域文化学会		
7. 主な社会活動、資格、その他		中学校社会科教諭専修免許、高等学校公民科教諭専修免許 高等学校地理歴史科教諭一種免許 韓国語教員養成課程修了(韓国延世大学)		
東京富士大学				

教員の業績					
職 名		教授	学 位	博士(心理学)	
氏 名	カ ナ	サトウ エミ	役 職 名		
	漢 字	佐藤 恵美			
1. プロフィール		白百合女子大学大学院文学研究科発達心理学専攻博士課程修了			
		博士(心理学)、公認心理師			
2. 主な担当科目		産業・組織心理学Ⅰ、Ⅱ, 社会心理学Ⅰ,Ⅱ, 認知心理学、大学院(産業・組織心理学研究)			
		専門演習ⅠⅡ、プレ専門演習			
3. 専門分野		パーソナリティ心理学、発達心理学、キャリア心理学と職業適性、心理測定			
4. 主な研究テーマ		青年期から成人期における職業的パーソナリティ発達とキャリア選択			
		パーソナリティにおける生理的指標を用いた実験研究			
5. 主な研究業績	著書	『応用心理学ハンドブック』(2022)(共著)福村出版(p.276-277) 執筆担当:第6章「パーソナリティと応用心理学:実験的方法によるパーソナリティの測定」			
		『カルドゥッチのパーソナリティ心理学』(2021) 翻訳執筆担当:第9章 生理心理学的視点ーパーソナリティ研究における神経学的、および大脳皮質にける検討ー (p.387-412) 福村出版 日本パーソナリティ心理学会編集			
		『シャイな自分に悩んだら 30日で身につくシャイネス・ワークブック 自分の個性を理解して、シャイと上手につきあえる人になろう』(2020) 佐藤恵美、松田浩平(訳)、Bernardo J. Carducci.(著) 福村出版			
		『働く人たちのメンタルヘルスと実務(2016) 分担執筆担当:第7章 ストレスに関する基礎知識』ナカニシヤ出版			
		『現代社会と応用心理学 第4巻』メンタルヘルス・安全(2015) 分担執筆担当:第2章 「働く事の意味とはー職業適性と職場適応ー」 福村出版			
		『ゼロから学ぶ 経営心理学』(2012)第1章 キャリア発達と職業選択、第12章 消費者の心を動かす広告 出版社:学文社			
		『SDSキャリア自己診断テストおよび同利用の手引き』(The Self Directed Search Manual)(2006) 出版社:日本文化科学社			
	論文	Stress Response and Personality Traits based on Salivary Amylase Changes in Personality Rating.Journal of Psychology and Behavioral Science, Vol. 9, No. 2, pp. 1-8, Emi SATO, Kouhei Matsuda, 2021			
		A pilot study of change in cerebral activity during personality rating by questionnaire and personal computer. SATO Emi, Kouhei Matsuda. International Journal of Psychology. 2019			
		A Factor Analytical Investigation of the Japanese Translation of the Cheek-Buss Shyness Scale in Support of the Three-Component Model of Shyness. Emi Sato, Kouhei Matsuda, Bernardo J. Carducci.Personality and Individual Difference. 124 160-167,Review, 2018			
		A Study of the motivation for choosing the university and future job orientation in Japanese University students. Emi SATO, Global Educational Review.Vol.2,No5.p.23-35.2014.			
		The experimental study on the relation of reaction time and personality traits-The difference of reaction time by the personality trait terms- 2009 The Japanese journal of Applied Psychology. (Co) 34, 72-81			
		A Study of Holland Theory Using the SDS Vocational Aptitude Test. -Utility and application-The Japanese journal of Applied Psychology. (Co) 34/Special Edition, 54-71 2009			
		青年期の自己イメージと自己記述語の年代的・発達の変化に関する研究 応用心理学研究 (共著) 第31巻 vol.1 p12-22, 2005			
	その他の研究活動	中小企業活路開拓調査・実現化事業「地域医療・介護福祉サービスビジョンの構築」報告書 株式会社アルプス ビジネス クリエーション 「地域医療・介護福祉サービスビジョンの構築」報告書 2004年3月 (pp.72-113)			
		科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)(令和2年度基盤研究C) 2020年4月~2024年3月 「生理・行動指標を用いた実験的方法による性格特性と性格類型の相互作用に関する研究」			
	6. 所属学会		日本心理学会、日本発達心理学会、産業・組織心理学会、		
			日本パーソナリティ心理学会、日本社会心理学会、日本応用心理学会		
	7. 主な社会活動、資格、その他		日本パーソナリティ心理学会(学会賞選考委員会委員)、白百合女子大学生涯発達研究センター研究員		
日本応用心理学会(第2部門「教育・発達・人格」機関誌編集委員会 編集委員)					
 東京富士大学					

教 員 の 業 績				
職 名		特任教授	学 位	商学士(中央大学)
氏 名	カ ナ	サトウ ジュン	役 職 名	入試広報部広報部長
	漢 字	佐藤 潤		
1. プロフィール		中央大学商学部卒		
		株式会社電通勤務(経理局、セールスプロモーション局、スポーツ局)		
		日本体育大学スポーツマネジメント学部教授歴任		
2. 主な担当科目		スポーツイベント、プロフェッショナル・セミナー		
3. 専門分野		スポーツマーケティング、スポーツスポンサーシップ		
4. 主な研究テーマ		スポーツ協賛の価値研究 スポーツ施設のネーミングライツ研究		
5. 主な研究業績	著書	スポーツイベント検定公式テキスト(共著) 日本イベント産業振興協会 2021		
	論文	「日本におけるネーミングライツの可能性と課題についての考察」 イベントプロデュース協会イベント総合研究所イベント研究8号 2016		
	その他の研究活動			
6. 所属学会		日本スポーツ産業学会 日本スポーツマネジメント学会		
7. 主な社会活動、資格、その他		東京富士大学イベント社会工学研究所主任研究員		
		NPO法人世界空手道連盟新極真会相談役		


東京富士大学

教 員 の 業 績

職 名		専任講師	学 位	学士(法学)
氏 名	カ ナ 漢 字	サトウ ユキコ 佐藤 友紀子	役 職 名	
1. プロフィール		成城大学 法学部 法律学科卒		
		イベント制作会社 株式会社テー・オー・ダブリューで営業・制作を担当。その後、		
		通販会社、教育関連会社などで勤務し、東京富士大学非常勤講師を経て現職		
2. 主な担当科目		イベント実施・運営、イベントキャリア、プロフェッショナル・セミナー、専門演習		
3. 専門分野		イベント制作・運営全般		
4. 主な研究テーマ		イベント企画・制作・運営について		
5. 主な研究業績	著書			
	論文	「農業体験イベントの考察」イベント科学の総合研究論集イベント研究第13号掲載 2021 共著		
		「イベントとSDGsについての考察」イベント科学の総合研究論集イベント研究第14号掲載 2022 共著		
その他の研究活動				
6. 所属学会		日本イベント協会		
7. 主な社会活動、資格、その他				

教員の業績

職 名		教 授	学 位	応用言語学 修士
氏 名	カ ナ	シオタニ ユミコ	役 職 名	国際交流推進室長
	漢 字	塩谷 由美子		
1. プロフィール		四国学院大学英文学士 南カリフォルニア大学応用言語学部修士課程修了		
2. 主な担当科目		日本語、日本の社会としくみ、基礎演習、就職特講		
3. 専門分野		日本語教育		
4. 主な研究テーマ		ビジネス日本語教育 外国人留学生のアクティブラーニングによる能動的学習と論理的思考の育成		
5. 主な研究業績	論文	「高度外国人材に求められる「聞く」「読む」「書く」「話す」能力とは — 質的調査法・量的調査法を用いたCan-do statementsの構築 —」『琉球大学国際教育センター紀要』第7号、2023年03月（共著）		
		「高度外国人材に求められるオンライン業務スキルに関する実態調査—CEFR2018補遺版に基づき開発したCan-do statementsを用いて—」『琉球大学国際教育センター紀要』第6号、2022年3月（共著）		
		「高度外国人材に求められるオンラインコミュニケーションスキルとは—CEFR2018補遺版に基づくCan-do statementsの開発—」『琉球大学国際教育センター紀要』第5号、2021年3月（共著）		
		「高度外国人材に求められる「仲介」スキルとは—CEFR2018補遺版におけるmediationの分析を通して—」『琉球大学国際教育センター紀要』第4号、2020年3月（共著）		
		「韓国で活躍する元留学生の高度人材をめぐる現状—メーカーにおける仲介人材に対する実態調査—」『琉球大学国際教育センター紀要』第3号、2019年3月（共著）		
		「日本企業で活躍する高度外国人材をめぐる現状—企業と高度外国人材の認識ギャップを中心に—」『富士論叢』第62巻第1号、東京富士大学学術研究会、2018年12月（共著）		
		「高度外国人材に求められる「仲介」スキルとは—タイで活躍する高度外国人材に対する実態調査を中心に—」『琉球大学国際教育センター紀要』第2号、2018年3月（共著）		
		「高度外国人材に求められるビジネス日本語フレームワークの構築—直観的手法を中心に—」『琉球大学国際教育センター紀要』創刊号、2017年3月（共著）		
		「学部留学生を対象としたことばと文化の教育を考える—能動的学習の促進を目指す「日本事情」科目を通して—」『言語文化教育研究会第2回研究集会 in 金沢 報告集』言語文化教育研究会、2015年12月（共著）		
		「大学教育における「日本事情」科目の位置づけに関する一考察：ディベートを用いた論理的思考育成の試み」日本語教育方法研究会誌 22(1)、日本語教育方法研究会、2015年3月（共著）		
	その他の研究活動	「高度外国人材に求められる『仲介』能力とは — 質的調査法・量的調査法を用いたCan-do statementsの構築 —」東アジア日本語教育・日本文化研究学会 2023年度国際学術大会研究発表、2023年08月（共同発表）		
		「高度外国人材に求められる「聞く」「読む」「書く」「話す」能力とは — 質的調査法・量的調査法を用いたCan-do statementsの構築 —」日本語教育学会2022年度秋季大会 2022年11月（共同発表）		
		「韓国で活躍する元留学生の高度人材をめぐる現状—メーカーにおける仲介人材に対する実態調査—」沖縄県日本語教育研究会第16回大会研究発表、2019年3月（共同発表）		
		「高度外国人材に求められる「仲介」スキルとは—タイで活躍する高度外国人材に対する実態調査を中心に—」沖縄県日本語教育研究会第15回大会研究発表、2018年3月（共同発表）		
		「高度外国人材に求められるビジネス日本語フレームワークの構築 —高度外国人材に対する実態調査「読む」「書く」活動を中心に—」沖縄県日本語教育研究会第14回大会研究発表、2017年3月（共同発表）		
		「高度外国人材に求められるビジネス日本語フレームワークの構築—高度外国人材と企業担当者に対する実態調査を中心に—」インドネシア日本語教育学会、日本語教育国際研究大会、2016年9月（共同発表）		
		「高度外国人材に求められるビジネス日本語フレームワークの構築 —直観的手法を中心に—」沖縄県日本語教育研究会第13回大会研究発表、2016年3月（共同発表）		
6. 所属学会		日本語教育学会 津田塾大学 言語文化研究所 言語学習の個性性とその対応に関する研究会 初年次教育学会		
7. 主な社会活動、資格				

教 員 の 業 績

職 名		専任講師	学 位	社会デザイン学修士
氏 名	カ ナ	シヅカ マサノリ	役 職 名	産学官・地域連携室 主任
	漢 字	志塚 昌紀		
1. プロフィール		2007年 立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科卒業		
		2008年～2011年 ビッグバンハウス株式会社チーフディレクター		
		2011年-2014年 埼玉県NPO活動推進課 2014年～現職		
2. 主な担当科目		コミュニティイベント論、アミューズメント論、イベント□実践特講、イベント実習、専門演習、基礎演習		
3. 専門分野		イベント学、地域研究、ソーシャルデザイン		
4. 主な研究テーマ		ソーシャルキャピタルが地域イベントに与える影響		
		ソーシャルデザインに根ざした教育研究		
5. 主な研究業績	著書	「オンラインのあたたかい場づくり 自主研究ノート」ころから株式会社,2021年5月(共著)		
	論文	「ボランティア活動が学生の自己肯定感に及ぼす影響」『聖学院大学総合研究所紀要』No.61,聖学院大学 2016年3月(共著)		
		「コンテンツツーリズムとしての「街コス」～「ラブコスみやしろ2016」を事例として～」『コンテンツツーリズム学会論文集』Vol.4,コンテンツツーリズム学会,2017年3月(共著)		
		「街回遊型コスプレイベント(街コス)が地域活性につながる要素～埼玉県宮代町の事例から～」『イベント研究』第9号,JPECイベント総合研究所,2018年3月(共著)		
		「「イベント」を学ぶ学生の2020年東京オリンピック・パラリンピックの意識に関する一考察～「イベント」を学ぶ学生に対する意識調査より～」『イベント研究』第10号,JEVAイベント総合研究所,2019年3月		
		「イベント研究における「余暇」の位置付けに関する考察」『イベント研究』第11号,JEVAイベント総合研究所 2020年2月		
		「eスポーツがもたらす承認性に関する考察～生きづらさを抱える若者達のeスポーツをきっかけとした社会参加の事例から～」『イベント研究』第13号,JEVAイベント総合研究所,2021年10月		
		「「イベント」における学生アルバイトの定着化に関する研究～イベント関連アルバイトへの意識調査より～」『イベント研究』第14号,JEVAイベント総合研究所,2022年10月		
		「大学における社会デザイン教育の実践事例調査」『環境経営研究所年報』第21号,名古屋産業大学・名古屋経営短期大学環境経営研究所,2022年12月		
		「イベントという「メディア」が顧客エンゲージメントに与える影響」第70巻第2号,近畿大学商経学会『商経学叢』 2023年9月		
「ソーシャルキャピタルが□□地域イベントの短成功に与える影響～COSSAN高田馬場」の事例より～」『イベント研究』第15号,JEVAイベント総合研究所,2023年11月				
6. 所属学会		社会デザイン学会、日本NPO学会、実践経営学会、日本福祉教育・ボランティア学習学会		
7. 主な社会活動、資格、その他		JEVAイベント総合研究所 主席研究員、国際大学グローバル・コミュニケーション・センター客員研究員、		
		草加市ふるさとまちづくり応援基金運営委員		
		(特非)ハンズオン埼玉 理事、イベント業務管理士1級		

教員の業績

職 名		特 任 教 授	学 位	学士(経済学)
氏 名	カ ナ 漢 字	シブヤ トキユキ 渋谷 時 幸	役 職 名	
1. プロフィール		中央大学経済学部卒		
		公務員(国税庁・国税局・経済企画庁等)として税務訴訟事務を担当する等の長年の経験を踏まえ、		
		2018年客員教授、2020年現職		
2. 主な担当科目		(大学院)演習Ⅰ(法人税)、演習Ⅱ(法人税)、税務会計論研究、社会関連会計論研究		
3. 専門分野		移転価格税制、国際税務(移転価格税制以外)		
4. 主な研究テーマ		移転価格税制、国際税務(移転価格税制以外)に関するテーマ(最近では、デジタルエコノミー関連)		
5. 主な研究業績	著書	『ストック・エコノミー』 東洋経済新報社、1992年6月(共著)		
	論文	「日本の家計資産と貯蓄率」『経済分析』第116号、1989年9月(共著)		
		「人的資産の推計と公的年金の再配分効果」『経済分析』第118号、1990年3月(共著)		
		「家計資産保有額の年次推移と家計貯蓄率の2時点間比較」『経済分析』第118号、1990年3月(共著)		
		「デジタル課税と課税案の現状等—OECD案を中心として—」『国際部門研究論文集』第11巻、東京税理士会日本税務会計学会国際部門、2021年9月		
	その他の研究活動	「ローカルファイル作成の手引き」経済産業省委託事業、2018年3月(共著)		
6. 所属学会		東京税理士会日本税務会計学会国際部門委員		
7. 主な社会活動、資格、その他		税理士		
 東京富士大学				

教員の業績				
職名		助教	学位	法学修士
氏名	カナ	シミズ タイヨウ	役職名	
	漢字	清水 太陽		
1. プロフィール		法政大学経済学部経済学科卒業、中央大学大学院国際企業関係法専攻博士課程前期課程修了 立教大学大学院経済学研究科経済学専攻博士課程後期課程単位取得満期退学 東京富士大学経営学部特命講師を経て、現職		
2. 主な担当科目		経営史、企業論、基礎演習		
3. 専門分野		経済史、経営史、金融史		
4. 主な研究テーマ		日本経済史研究、日本経営史研究、日本金融史研究		
5. 主な研究業績	著書			
	論文	「晩年期における渋沢栄一の企業者活動の一考察ー埼玉県を事例としてー」 『富士論叢』第65巻1=2合併号(2024年3月、査読付)単著		
		「1920年代における地方銀行の経営と銀行合同の展開ー埼玉県武州銀行を事例としてー」 『富士論叢』第63巻・64巻合併号(2022年3月)単著		
		「1910年代後半における埼玉県の銀行合同の種ー武州銀行の設立を事例としてー」 『富士論叢』第62巻第1号(2019年4月)単著		
		「岡田忠彦の武州銀行設立構想」『立教経済学論叢』第72号(2009年2月)単著		
		「1920年代の金融政策ー日本銀行の救済融資」『中央大学大学院研究年報』第34号、研究科篇(2005年3月)単著		
	その他の研究活動	「晩年期における渋沢栄一の企業者活動の一考察ー埼玉県を事例としてー」 2023年度日本経済思想史学会第3回例会、於：慶應義塾大学(2023年12月)単著		
		「企業家活動と渋沢栄一～民間編～」2022年度WEBオープンキャンパス模擬講義 (2022年10月)単著		
		「企業家活動と渋沢栄一」2021年度WEBオープンキャンパス模擬講義 (2021年10月)単著		
		「埼玉県における銀行合同の前提ー武州銀行を事例としてー」2013年度日本金融学会 歴史部会、於：麗澤大学東京研究センター(2013年11月)単著		
		「武州銀行と渋沢栄一」渋沢研究会第174回、於：文京学院大学(2011年7月)単著		
		「岡田忠彦の「中央銀行」構想と武州銀行」社会経済史学会第80回全国大会、 於：立教大学(2011年5月)単著		
		「武州銀行の設立と開業」市場の地域性研究会第8回、於：立教大学(2009年12月)単著		
		「武州銀行の貸出政策ー地方資金の流出問題に対する一考察を中心として」 市場の地域性研究会第4回、於：立教大学(2009年7月)単著		
		「書評 山崎広明著『昭和金融恐慌』」『日本経済思想史研究』第7号(2007年3月)単著		
「書評 岩田規久男編著『昭和恐慌の研究』」『立教経済学論叢』第70号(2007年3月)単著				
6. 所属学会		社会経済史学会、日本金融学会、日本経済思想史学会、埼玉県地方史研究会		
7. 主な社会活動、資格、その他				

東京富士大学

教 員 の 業 績				
職 名		専任講師	学 位	修士(経済学)
氏 名	カ ナ	シミズ ヨシキ	役 職 名	
	漢 字	清水 良樹		
1. プロフィール		立教大学大学院経済学研究科経済学専攻博士課程前期課程修了(経済学修士)		
		立教大学大学院経済学研究科経済学専攻博士課程後期課程(単位取得退学)		
		2012年より現職		
2. 主な担当科目		マクロ経済学、ミクロ経済学、国際金融論、国際投資論、金融論、経済政策論、銀行論、証券論 基礎演習、プロフェッショナル・セミナーⅠ・Ⅱ、専門演習Ⅰ・Ⅱ		
3. 専門分野		国際金融		
4. 主な研究テーマ		欧州通貨統合下の金融と財政、中央銀行信用の意義と限界、金利政策の有効性を検証 資本移動規制、決済システム、中央銀行による資産インフレへの対処、個人の資産形成		
5. 主な研究業績	著書	(共著)『終わりになき世界金融危機 バブルレス・エコノミーの時代』岩波書店、2012年9月		
	論文	(単著)「EU通貨統合下の金融・為替政策の特徴」『立教経済学論叢』(査読論文)、第70号、立教大学大学院経済学研究会、2007年3月。		
		(単著)「ユーロ域内取引における国際収支不均衡とその限界」『立教経済学研究』、第63巻、第2号、2009年10月。		
		(単著)「金融・経済危機におけるユーロシステムの危機対応—他国中央銀行との共通性とその独自性—」『季刊 経済理論』、経済理論学会編、第49巻、第1号、2012年4月。		
		(単著)「中央銀行信用の意義と限界」『立教経済学論叢』(無査読論文)、第77号、立教大学大学院経済学研究会、2013年3月。		
		(単著)「ECBが抱えるQE政策のジレンマ」『桜美林エコノミックス』、第7号(通巻63号)、桜美林大学 桜美林論考、2016年3月。		
		(単著)「日銀の債務超過 マイナス金利政策の効果と副作用」『富士論叢』第61巻第1号、2016年12月。		
		(単著)「ユーロ圏のインフレに対する利上げの有効性」『富士論叢』第65巻第1=2合併号、2024年3月。		
	その他の研究活動			
6. 所属学会		経済理論学会、信用理論研究学会		
7. 主な社会活動、資格、その他				
東京富士大学				

教員の業績

職 名		教 授	学 位	博士(法学 慶應義塾大学)
氏 名	カ ナ	スミダ コウジ	役 職 名	図書紀要委員会委員長
	漢 字	隅田 浩司		
1. プロフィール		慶應義塾大学法学部法律学科卒業、同大学院法学研究科民事法学専攻修了(法学修士)		
		慶應義塾大学大学院法学研究科校規博士課程単位取得退学 (博士(法学))		
		東京大学センタ科学技術研究センター特任研究員を経て現職		
2. 主な担当科目		経済法 消費者法 会社法Ⅰ 会社法Ⅱ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ プロフェッショナル・セミナー		
		多文化理解 ビジネスロー研究(大学院) 演習Ⅰ(大学院)		
3. 専門分野		経済法 国際経済法 交渉学		
4. 主な研究テーマ		企業間の合意に対する競争法の適用について		
		貿易歪曲効果をもたらす国家補助・補助金に対する国際規律、交渉過程の心理過程の分析		
5. 主な研究業績	著書	共著『リーダーシップを鍛える「対話学」のすゝめ: 誰も知らない対話力の秘密』(2021 東京書籍)		
		共著『戦略的交渉入門』(2014 日本経済新聞出版社)		
		共著『【ビジュアル解説】交渉学入門』(2010 日本経済新聞出版社)		
		単著『プロフェッショナルの戦略交渉術』(2007、日本経団連出版)		
	論文	単著「米国反トラスト法における合理の原則とエラーコスト分析」法学研究96巻12号(2023 慶應義塾大学)462頁		
		単著「ソフトウェアの脆弱性に関する仕様書案の配布が取引妨害に該当するとして確約計画の認定が行われた事例—公取委令和4・6・30発表 経済法判例研究会」ジュリスト2023年11月号(1590号)126頁		
		単著、論文「競争法における偽陽性・偽陰性に関する一考察」土田和博他編『現代経済法の課題と理論 金井貴嗣先生古希記念祝賀論文集』(弘文堂 2022)87頁		
		公正取引843号35頁(2021)		
		ジュリスト1550号112頁(2020)		
		ダニエル・L・シャピロ『決定版 ネゴシエーション3.0 解決不能な対立を心理学的アプローチで乗り越える』(2020 ダイヤモンド社)		
		ジュリスト1544号(令和元年度重要判例解説(ジュリスト臨時増刊) 240頁(2020)		
		単著、資料論文「法交渉学における研究手法に関する研究」(査読あり)説得交渉学研究第9巻31頁(2017)		
		単著「交渉力の格差についての考察」説得交渉学研究第5巻57頁(2013)		
		単著「競争事業者間の提携に対する競争法の適用: プロフェッショナル・スポーツ・リーグと「単一事業体の法理」を題材として」多国籍企業研究第3号61頁(2010)		
		単著「交渉力の格差に関する法的分析—経済法と交渉学の視点から」日本知財学会誌第7巻第2号4頁(2010)		
		単著「米国反トラスト法における当然違法の原則の適用に関する考察」(2009、大宮ローレビュー5号125頁)		
		単著「水平的共同行為規制における違法性評価の手法について—米国反トラスト法における合理の原則の展開を中心として」(2008、大宮ローレビュー(大宮法科大学院大学)第4号77頁)		
		単著「水平的共同行為規制における違法性評価の手法について」(2008、日本経済法学会年報 29号109頁		
		単著「事業提携に対する競争法上の評価について」(2007、大宮ローレビュー(大宮法科大学院大学)第3号 62頁)		
		単著「戦略的交渉と交渉学」2005、パテント(日本弁理士会)58号5頁)		
	その他の研究活動	(判例評釈)「経済法判例研究会 プリント本体の設計変更による互換品カートリッジ排除が問題になった事件」ジュリスト1572号 113頁 2022年5月 単著		
		判例評釈: 単著「[経済法判例研究会]顧客奪取行為に関する不当な取引妨害(一般指定14項)の適用の可否と公正競争阻害性——東京地判平成30・5・10」ジュリスト1535号 100頁 2019年		
		判例評釈: 単著「将来にわたって競争を制限する合意[旭硝子事件]」『経済法判例・審決百選 第2版 別冊ジュリスト234号 56頁 2017年		
		判例評釈: 単著「農業協同組合による系統外出荷制限事件—公取委排除措置命令平成29. 3. 29」ジュリスト1510号 110頁 2017年		
		単著「競争の実質的制限」の有無について経済分析が証拠として提出された事例—モディファイヤー価格カルテル事件ジュリスト1416号90頁 2011年		
		判例評釈: 単著「親子会社間の取引と課徴金の対象となる「当該商品」の成否—ポリプロピレン価格カルテル事件課徴金審決(公取委課徴金審決平成22・2・24)」ジュリスト増刊平成22年度重要判例解説(ジュリスト臨時増刊1420号) 2011年		
		判例評釈: 単著「バイタルネット課徴金審決取消訴訟判決—東京高判平成22年4月23日」公正取引724号 104頁 2011年		
6. 所属学会		日本経済法学会 日本国際経済法学会 日本社会心理学会 多国籍企業学会		
		情報ネットワーク法学会 説得交渉学会		
7. 主な社会活動、資格、その他		慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所客員上席研究員 金沢工業大学虎ノ門大学院イノベーションマネジメント研究科知的財産マネジメントプログラム客員教授		

教員の業績				
職 名		准教授	学 位	博士(芸術)
氏 名	カ ナ	セーンジャー	役 職 名	
	漢 字	賽音 吉雅		
1. プロフィール		大東文化大学大学院経済学研究科経済学専攻 博士課程前期修了(修士)		
		モンゴル国立文化芸術大学大学院文化芸術研究科 博士課程後期修了(博士)		
		東京富士大学非常勤講師を経て現職		
2. 主な担当科目		専門演習、プロフェッショナル・セミナー、イベント実習		
		文化芸術イベント論、中国語		
3. 専門分野		芸術学、 イベント学、 文化交流		
4. 主な研究テーマ		伝統文化イベント創造の研究		
		異文化交流イベント計画の研究		
5. 主な研究業績	著書	「賽音吉雅先生の中国語～我喜欢～」 OSU出版 2024 単著		
		「馬頭琴によるイベントの創作」 モンゴル国民族出版社 2021 単著		
		詩集「はるかな大空のむこうから ―モンゴル旅―」 ユーフォーブックス 2017 共著		
	論文	「伝統文化イベントの創造研究～芸術としての馬頭琴イノベーション～」(イベント研究第15号) 2023 単著		
		「美術館イベントの多様性と継続性の課題 ～箱根ガラスの森美術館における東西文化交流イベントを実例として～」(イベント研究第14号) 2022 単著		
		「美術館イベント計画に関する考察 ～箱根ガラスの森美術館イベントの事例研究として～」(イベント研究第13号) 2021 単著		
		「異文化理解 イベントの事例考察 ～「スーホの白い馬」の学習を通して～」(内モンゴル馬頭琴芸術博物館) 2021 単著		
		「伝統文化芸術としての馬頭琴 ～伝統文化イベント創造の研究の端緒として～」【富士論叢第63巻・64巻】		
		「音楽イベントの現状」に関する考察馬頭琴によるイベントの事例研究として」 2020 単著		
		「日本に受ける馬頭琴の音色の研究」(モンゴル国馬頭琴協会) 2019 単著		
		「伝統楽器のコラボレーションから見た文化の共通点」(北方少数民族音楽文化研究会)2011 単著		
	その他の研究活動	異文化交流イベントの研究テーマで舞台「馬頭琴音楽祭」企画、制作 2023		
		伝統文化イベント創造の研究テーマで映画「草加煎餅物語」監督、企画、制作 2022		
6. 所属学会		日本AI音楽学会		
		北方少数民族音楽文化研究会		
7. 主な社会活動、資格、その他		モンゴル国馬頭琴協会 理事		
		国際交流協会 アジアの風 常務理事		

東京富士大学

教員の業績

職 名		准教授	学 位	博士(学術)(東京大学)
氏 名	カ ナ	タカタ シンヤ	役 職 名	
	漢 字	高田 真也		
1. プロフィール		東京大学教養学部総合社会科学科卒		
		東京大学大学院総合文化研究科博士課程満期退学		
		高崎経済大学非常勤講師、早稲田大学経営システム工学科助教を歴任		
2. 主な担当科目		経営学、企業論、コンピューター概論、コンピューター・サイエンス、基礎演習		
3. 専門分野		経営学(特にサステナビリティ、M&A、ステークホルダー など)		
4. 主な研究テーマ		合併・買収におけるステークホルダーの影響の分析		
		CSV活動に関する実証分析		
5. 主な研究業績	著書	Prime Archives in Sustainability: 3rd Edition,2023.3 (共著)		
	論文	「マルチレベル分析を用いたCSV活動のTweet拡散要因の分析」『経営システム学会誌』第40巻2号,2023.11(共著(筆頭著者))		
		Data-driven cooking planning system for improving customer time satisfaction,Shuya Sawa <i>et al.</i> Asian J. of Management Science and Application,2023.5(共著)		
		「感染症パンデミックに対するリスクマネジメントー有価証券報告書の事業等のリスクに関する記載のトピック分析とレピュテーション指標の分析を通じてー」『危険と管理』54号,2023.5		
		Does SDGs Advertising Promote Ethical Consumer Behaviour?,Ho Hei Cheng <i>et al.</i> , Sustainability,2023.4(共著)		
		「アーリーベンチャーにおける社会インパクト投資の意思決定と投資先企業の特徴」『経営倫理学会誌』30号(共著(筆頭著者)),<研究ノート>,2023.3		
		Research on the effects and factors of CSV activities by sector in domestic firms,Sustainability Special Issue,2022.8(共著(筆頭著者))		
		「ステークホルダーマネジメントとリスクマネジメントの接点に関する一考察-事業リスク情報の分析を通じて-」『危険と管理』53号,2022.5		
		「日本企業のCSV活動の効果測定手法に関する一提案-共創パターンによる類型化と活動の直接・間接効果ー」『経営倫理学会誌』29号,2022.3(共著(筆頭著者))		
		「合併における直前の関係の構造と、動機・プロセスに与える影響-事例比較による情報、信頼、パワーに関する考察-」『経営教育研究』第25巻1号,2022.1		
		「テキストデータに基づくCSV活動の実態分析」『経営システム学会誌』第38巻2号,2021.11(共著(筆頭著者))		
		「合併における事前の関係とその影響」東京大学大学院総合文化研究科,博士論文,2018.4		
		「ステークホルダー研究におけるマクロ・アプローチとミクロ・アプローチのリンケージ」,『経営会計研究』7号 ,2006.12		
	その他の研究活動	「時事探訪:障がい者雇用を通じたインターナルブランディングの実現-エスプール社と利用企業の事例を通じて」,産労総合研究所『人事の地図』2023.11.		
6. 所属学会		組織学会、日本リスクマネジメント学会、日本経営倫理学会、実践経営学会、		
		日本経営システム学会ほか		
7. 主な社会活動、資格、その他		経営システム学会(IJAMS編集委員)		
		早稲田大学「価値創造マネジメント研究所」招聘研究員		

教員の業績

職 名		准教授	学 位	体育学士 リハビリテーション体育士
氏 名	カ ナ	タジマ トシミ	役 職 名	学生支援部長
	漢 字	田島 外志美		

1. プロフィール		筑波大学体育専門学群卒、国立身体障害者リハビリテーション学院 リハビリテーション体育専門	
		職員養成課程卒、(財)東京YMCA社会体育専門学校 教員を経て、東京富士大学 准教授	
		学生委員会委員長、キャリア開発センター副部長、学生支援副部長などを歴任し、現職	
2. 主な担当科目		健康と運動Ⅰ・Ⅱ、健康と運動Ⅲ・Ⅳ、基礎演習Ⅰ・Ⅱ	
3. 専門分野		体育方法論、アダプテッド・スポーツ	
4. 主な研究テーマ		運動中の視線研究	
		大学生の能力開発のためのアーキテクチャ設計に関する基礎的研究	
5. 主な研究業績	著書		
	論文	「就職活動のフロー体験化を促進するメソッド開発～「自己分析」「企業研究」におけるゲーミフィケーションの実践～」『富士論叢』、第60号、第1号 2015年(調査報告書) 共著	
		「大学生の能力開発のためのアーキテクチャの設計に関する基礎的研究」ー就職活動のゲーミフィケーションを手がかりにー 『富士論叢』、第59巻 第1号 2014年 共著	
		聴覚障害卓球選手の視線分析から探るビジュアル・トレーニング 『富士論叢』、第57巻 第1号 2012年 共著	
		「ビジョンが身体反応に及ぼす影響について:卓球におけるビジョントレーニングの可能性」 『富士論叢』、第53巻 第2号 2009年 共著	
		「効果的な車椅子キャスター上げの指導法について」1998年3月、学院卒業研究(国立身体障害者リハビリテーション学院)	
		「肢体不自由者の運動生活に関する一考察」1996年3月 学位論文(筑波大学)	
	その他の研究活動	「インターンシップ実習成果報告書(平成27年度)」 2016年2月.編集	
		「インターンシップ実習成果報告書(平成26年度)」 2015年3月.編集	
		「聴覚障害者の目の動きに迫る(スポーツ編)」、『翼』、NO255 2013年4月 単著	
(研究ノート)「東京富士大学生の健康状態と大学における体育の必要性」 『富士論叢』、第51巻 第2号 2007年 単著			
6. 所属学会		日本体育学会	
		日本思春期学会	
		日本手話通訳学会	
7. 主な社会活動、資格、その他		障がい者スポーツ指導員(上級)、中学校・高等学校教諭1種免許(保健体育)	
		手話通訳士	
		全日本スキー連盟指導員・B級検定員	
		杉並区ソフトテニス連盟理事	

教 員 の 業 績

職 名		特 任 教 授	学 位	経 済 学 士
氏 名	カ ナ	タナカ トシヒサ	役 職 名	
	漢 字	田 中 俊 久		
1. プロフィール		慶応義塾大学 経済学部卒業		
		税務大学校 研究部 教授（税務研究）		
		東京国税局 柏税務署長を経て、2020年から現職		
2. 主な担当科目		（大学） 法人税、所得税		
		（大学院） 演習Ⅰ（法人税）、演習Ⅱ（法人税）、法人税研究Ⅰ、所得税研究Ⅰ		
3. 専門分野		法人税、所得税、国際課税		
4. 主な研究テーマ		富裕層をめぐる税制、法人税、国際課税		
5. 主な研究業績	著 書	「税務調査ガイド」 税経 2021年6月（単著）		
		「国際税務要覧」 財経詳報社 1991年4月（分担執筆）		
	論 文	「入門 課税要件と証拠の論理：税務争訟における審判所・裁判所の考え方(第18回) 非上場有価証券の評価損が争われた事例」 税経通信2022.2月号 2022年2月		
		「入門 課税要件と証拠の論理：税務争訟における審判所・裁判所の考え方(第12回) 損害賠償請求権の益金算入時期が争われた事例」 税経通信2021.8月号 2021年8月		
		「入門 課税要件と証拠の論理：税務争訟における審判所・裁判所の考え方(第10回) 審判所の職権調査による証言によって原処分が取り消された事例」 税経通信2021.6月号 2021年6月		
		「特集Ⅰ ケース別に税務・法務を確認 非上場会社に対する個人所有株式の移転 / 1 個人が会社に株式を譲渡する場合に係る税務上の規定」 税経通信2021年3月号 2021年3月		
		「入門 課税要件と証拠の論理：税務争訟における審判所・裁判所の考え方(第5回) 要件事実と立証責任」 税経通信2021年1月号 2021年1月		
		「デザイナー・レート・タックスに関する考察—スイス税制を中心に—」 税大論叢75号 2012年7月		
		「移転価格課税における比較可能性の要件について」 税大論叢71号 2011年6月		
	その他の研究活動	「第65回IFA(国際租税協会)年次総会—平成23年(2011年)パリ大会—」 税大ジャーナル20号 2013年1月		
		「2011年度IFA年次総会(パリ大会)報告」 租税研究749号 2012年3月		
		「最近の移転価格税制の動向—平成23年度改正とその背景—」 税務大学校公開講座 2011年3月		
6. 所属学会				
7. 主な社会活動、資格、その他		税理士(東京税理士会会員)		
		「The 4th OECD-ASEAN Tax Seminar」 OECD主催アウトリーチ講師 2010年9月		

教 員 の 業 績				
職 名		准教授	学 位	
氏 名	カ ナ	ドイ ミツル	役 職 名	
	漢 字	土井 充		
		商学修士(明治学院大学)		
1. プロフィール		明治学院大学学士 明治学院大学大学院博士後期課程単位取得退学 東京富士大学就職支援課主任、自己点検推進部副部長等歴任		
2. 主な担当科目		会計学I・II、財務会計論研究I・II プレ専門演習I、専門演習I・II、演習I・II(財務会計)		
3. 専門分野		財務会計論		
4. 主な研究テーマ		計算構造論		
5. 主な研究業績	著書	『複式簿記－根本原則の研究－』(瀧田輝己編著、第2章「複式簿記システムの単純化モデルに内在する固有の機能」、31頁-60頁)、2007年、白桃書房(共著)		
		『会計の世界』(松本公文編著、第3章「国際会計」、43頁-58頁)、2005年 白桃書房(共著)		
		『簿記3級検定対策・テキスト』(佐藤康廣編著、「第15章試算表の作成、第16章決算(その3)、第17章決算(その4)」、69頁-86頁)、2000年、日本エデュケーションセンター(共著)		
		『簿記3級検定対策・問題集』(佐藤康廣編著、「第16章試算表の作成、第17章精算表(1)(全経)、第18章精算表(2)(日商)」、58頁-82頁)、2000年、日本エデュケーションセンター(共著)		
	論文	「複式簿記の本質的機能－構文論的分析を手がかりとして－」 『日本簿記学会第21回全国大会(簿記理論研究部会最終報告)』、2006年		
		「会計システムの本質的機能に基づく会計職能の類型化」 『三田商学研究』(第47巻、第1号)、2004年		
		「財産法・損益法とFASB資産負債アプローチ・収益費用アプローチとの異同」 『会計史』(18号)、2000年		
	その他の研究活動	(東京富士大学共同研究「生態系と経済活動の関係の考察」)「都心近郊の里山保全の取り組みに関する調査－横沢入里山保全地区と飯能・西武の森を中心にして－」、 『富士論叢』(第60巻第1号)、2015年		
		(東京富士大学共同研究)『「会計」を身近にするキーワード事典』(松本公文・岩田康成編著、「V 国際会計基準」、194頁-219頁)、2007年、日本経済新聞出版社(共著)		
		「コンピテンシーを用いた演習教育評価」(口頭発表、共著)、産業・組織心理学会第22回大会 2006年9月		
		(東京富士大学共同研究「多目的ビジネス・ゲームの開発」)「多目的ビジネス・ゲームの開発」、『富士論叢』(第48巻第1号)、2003年		
		『現代会計用語辞典』(興津裕康・大矢知浩司編著、「貨幣性資産」「貸借対照表完全性の原則」「棚卸減耗損」)、税務経理協会		
	6. 所属学会		日本会計研究学会、日本簿記学会 国際会計研究学会、日本会計史学会	
	7. 主な社会活動、資格、その他		公益財団法人日本自然保護協会 自然観察指導員 公益社団法人日本山岳協会 自然保護指導員	


東京富士大学

教員の業績

職 名		准教授	学 位	修士(法学)
氏 名	カ ナ	ナガキ イクヤ	役 職 名	学務部副部長
	漢 字	長岐 郁也		
1. プロフィール		亜細亜大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学		
2. 主な担当科目		民法、法学、基礎演習、プレ専門演習、専門演習		
3. 専門分野		民法、信託法		
4. 主な研究テーマ		信託義務違反における救済法理		
5. 主な研究業績	著書			
	論文	「停止条件と不確定期限の性質決定に関する考察」松蔭論叢、第7巻、2011		
		「受益者連続からみた後継ぎ遺贈の代替可能性」亜細亜大学法学研究論集、第26号、2001		
その他の研究活動				
翻訳	張軍建「現代の中国における法学教育の分析」、亜細亜法学第39巻第1号、2004			
6. 所属学会		日本私法学会、信託法学会、英米法学会、比較法学会、アジア法学会		
7. 主な社会活動、資格、その他				

教員の業績				
職名		准教授	学位	修士(学術)
氏名	カナ	ナンバ トシキ	役職名	入試広報部 参与
	漢字	難波 俊樹		
1. プロフィール		東京工業大学 大学院社会理工学研究科 修士課程修了		
		東京女子学園中学・高等学校 教員		
		出版社勤務		
2. 主な担当科目		社会学、環境経営、基礎演習		
3. 専門分野		教育工学 メディア社会学 科学コミュニケーション		
4. 主な研究テーマ		思考力・創造力の育成・評価 探究学習		
		メディアや科学と社会との関連		
5. 主な研究業績	著書	『国語力ものびる算数パズル』ユーフォーブックス 2016		
		『算数と国語を伸ばす天才パズル』学研プラス 2017		
		『新・読解カトレーニング 錬成BOOK』英語運用能力評価協会 2022 (共著)		
		『信じることから始まる探究活動のすすめ』大修館書店 2024 (共著)		
	論文	「未来型の算数能力を育成するための学力診断法と教材の開発」日本教育工学会 2011年3月		
	その他の研究活動	(報告)生徒・学生のAIツール使用を前提とした課題提示 2023 日本アクティブ・ラーニング学会		
		(報告)STEAM教育における女子教育の優位性 2023 日本アクティブ・ラーニング学会		
6. 所属学会		日本アクティブ・ラーニング学会 AI時代の教育学会		
		科学社会学会 日本数学教育学会		
7. 主な社会活動、資格、その他		日本アクティブ・ラーニング学会 副会長		
		NPO法人英語運用能力評価協会 アドバイザー		
東京富士大学				

教員の業績

職 名		教 授	学 位	経営学修士
氏 名	カ ナ	ハナオ ユカリ	役 職 名	
	漢 字	花尾 由香里		
1. プロフィール		上智大学大学院経済学研究科修士課程修了、同博士課程単位取得満期退学		
2. 主な担当科目		消費者行動論Ⅰ・Ⅱ、マーケティング概論Ⅰ・Ⅱ プロフェッショナル・セミナーⅠ・Ⅱ、専門演習		
3. 専門分野		消費者行動、マーケティング		
4. 主な研究テーマ		消費者のあいまいな推論傾向と商品表示による購買選択への影響についての研究 消費者のリスク認知とベネフィット認知による購買への影響についての研究		
5. 主な研究業績	著書	「第3章-2 消費者行動とコミュニケーション」155-172.『コミュニケーションの社会心理学』 岡本信一郎編著 ナカニシヤ出版 2023		
		「第15章トピック6 災害時における消費者の買いだめ行動」『応用心理学ハンドブック』 応用心理学ハンドブック編集委員会（編集）福村出版 2022		
		「第1章消費者行動研究の意義と目的」『消費者行動の心理学：消費者と企業のよりよい関係性（産業・組織心理学講座第5巻）』永野光郎編著 北大路書房 2019		
		「第15章 消費者心理学の応用」『産業・組織心理学〔改訂版〕』 小野紘一・関口和代編著 白桃書房 2017		
		「ネット消費社会―急成長するeコマース市場」『クローズアップ「メディア」現代社会と応用心理学5』 浮谷秀一・大坊郁夫編著 福村出版、2015		
		「第2章 消費者行動と購買における意思決定プロセス」「第3章 定量・定性的なマーケティング心理の分析と活用」『ビジネス心理検定試験公式テキスト<3>マーケティング心理編』ビジネス心理学会編著 中央経済社、2013		
		「第11章 消費者行動と購買行動」『ゼロから学ぶ 経営心理学』 藤田 圭一編著 学文社、2012		
		「消費者の記憶と知識」「マーケティング戦略と消費者行動」『産業・組織心理学ハンドブック』産業・組織心理学会編著 丸善、2009		
	論文	「インターネットバンキングに対する消費者のリスク認知と対処行動」 富士論叢(2017) 第61巻 第1号, pp73-92		
		「企業のリスクコミュニケーションに対する対応姿勢と消費者の参加意識についての分析」 産業・組織心理学研究 (2009) 第23巻 第1号, pp.29-42 (共著)		
		「消費者の健康関連商品の推論に暗示的表現が及ぼす影響」富士論叢 (2009) 第54巻 第1号, pp23-25 (共著)		
		「非明示的な広告表現が消費者の推論に及ぼす影響―健康美容効果を訴求した言語表現を題材として―」富士論叢 (2008) 第53巻 第1号 pp.1-19 (共著)		
		「満足経験の原因帰属が企業と消費者間の関係性に与える影響」 産業・組織心理学研究 (2003) 第16巻 第2号, pp.77-85 (単著)		
	学会発表	「インターネットバンキングのセキュリティに対する消費者意識」産業・組織心理学会第32回大会発表論文集 pp.265-266		
		“Consumer education on cyber security”, the 14th Annual Hawaii International Conference on Education, http://www.hiceducation.org/2016%20Final%20Program.pdf		
		“Education for consumer’s information processing”, the 13th Annual Hawaii International Conference on Education, http://www.hiceducation.org/2015%20Final%20Program.pdf		
		「食品のリスクとベネフィット認知による購買への影響 ―価格と情報提示による検討―」日本応用心理学会 第81回大会発表論文集, p. 98		
	その他の研究活動	行動科学に基づく対象者別リスクコミュニケーションの手法の開発と評価<共同研究> (厚生労働科学研究費補助金23-25年度)		
		消費者のあいまいな推論傾向についての研究 (科学研究費補助金22-24年度)		
6. 所属学会		日本消費者行動研究学会, 日本商業学会, 日本広告学会 日本社会心理学会, 日本応用心理学会, 産業・組織心理学会		
7. 主な社会活動、資格、その他				

教員の業績					
職 名		教授	学 位	修士(商学)	
氏 名	カ ナ	ヒロセ モリカズ	役 職 名		
	漢 字	広瀬 盛一			
1. プロフィール		早稲田大学商学部、早稲田大学大学院商学研究科修士課程修了			
		同博士後期課程単位取得(商学修士)			
		東京富士大学専任講師、助教授、准教授を経て現職			
2. 主な担当科目		広告論Ⅰ、Ⅱ、マーケティング概論Ⅰ、Ⅱ、専門演習			
3. 専門分野		広告、マーケティング、消費者行動			
4. 主な研究テーマ		モバイル・マーケティング、レピュテーション・マネジメント			
5. 主な研究業績		著書			『現代広告全書』有斐閣2021(共著)
					『現代マーケティング論 第2版』実教出版、2018年(共著)
					『Branding Asian Cities: Strategy and Practice 2010』Communication University of China、2012、共著
					『Social Marketing for Public Health: Global Trends and Success Stories』Jones & Bartlett Pub、2009(共著)
					『Advertising Research: Message, Medium & Context』Garant Uitgevers N V、2009(共著)
					『マーケティング戦略論』芙蓉書房出版、2008(共著)
					『新しい広告』電通、2006(共著)
		論文			「An international perspective of the academic-practitioner divide in advertising: an exploratory study into its causes and solutions,」International Journal of Advertising, 42:1, 181-200, DOI: 10.1080/02650487.2022.2142416、2022年、共著
					Rašković, M., Ding, Z., Hirose, M., Žabkar, V., & Fam, K. S. (2020). Segmenting young-adult consumers in East Asia and Central and Eastern Europe-The role of consumer ethnocentrism and decision-making styles. Journal of Business Research, 108, 496-507、2020年、共著
					「Effects of displacement-reinforcement between traditional media, PC internet and mobile internet A quasi-experiment in Japan」International Journal of Advertising 28(1)、2009、共著
					「Does gender affect media choice in travel information search? On the use of mobile Internet」Tourism Management Vol.30、2009、共著
					「O2Oにおける広告コミュニケーションの機能と役割」『広告科学』61, 29-48, 2015, 共著
					「モバイルクーポンにおけるプライバシーとユビキタス性の影響：時間的制限の影響を考慮したアプローチ」『日経広告研究所報』49(1), 2-9, 2015, 共著
					「The Influence of Personal Data Usage on Mobile Apps.」In Advances in Advertising Research (Vol. VII) (pp. 101-113). Springer Fachmedien Wiesbaden.、2017、共著
					「Analyzing consumer responses to human-oriented CSR advertising appeals in an age of corporate social responsibility: The case of Japan vs. the US」. Journal of Management and Training for Industries, 5(3), 68 2018年、共著
6. 所属学会		日本広告学会、日本商業学会、日本消費者行動研究学会、日本フードサービス学会			
		アメリカ広告学会、ヨーロッパ広告学会			
7. 主な社会活動、資格、その他		日本広告学会常任理事、日本商業学会IJMD編集委員長			
		Editorial Board, Journal of Global Fashion Marketing			

東京富士大学

教員の業績

職 名		准 教 授	学 位	修士(商学)	
氏 名	カ ナ	フカザワ タクヤ	役 職 名		
	漢 字	深澤 琢也			
1. プロフィール		明治大学商学部卒業			
		明治大学大学院商学研究課博士前期課程修了, 同大学院博士後期課程中退			
		2014年4月より現職			
2. 主な担当科目		マーケティング論, 流通論, プロフェッショナル・セミナー, 専門演習Ⅰ・Ⅱ, 卒業論文指導			
3. 専門分野		国際マーケティング			
4. 主な研究テーマ		小売・流通企業のグローバル戦略			
5. 主な研究業績	著書	「第12章 国際マーケティング・チャネル戦略」,『新版 国際マーケティング講義』,pp.207-226,諸上茂登・深澤琢也・鈴木仁里共著,同文館出版			
		「第9章 コンビニエンスストア」,『流通と小売経営』, pp.187-207, 坪井晋也・河田賢一編著(2020), 創成社			
		「第8章 国際マーケティング・ケイパビリティの定量分析」,『国際マーケティング・ケイパビリティー戦略計画から実行能力へ』, pp.161-197, (共同分担執筆者: 鈴木仁里)、諸上茂登編著(2019), 同文館出版			
		「第10章 企業はどのようにして製品やサービスを販売するのか」,『実践に学ぶ経営学』, pp.175-190, 風間信隆・松田健編著(2018), 文眞堂			
		「第13章 多国籍小売業のサステナビリティ」,『企業のサステナビリティ戦略と経営品質科学』, pp.223-232, 山下洋史・諸上茂登編著(2016) , 同文館出版			
		「第5章 グローバル調整の課題」(共同分担執筆者:馬場一・崔在濬・内田康郎),『経営品質科学の研究』, pp.86-103, 明治大学経営品質科学研究所編 (2011) , 中央経済社			
	論文	「消費財中小企業の海外市場開拓に関する調査研究～地域資源活用企業を中心として～」,『財団法人中小企業総合研究機構 平成23年度調査研究プロジェクト』, pp.1-168, 財団法人中小企業総合研究機構(2013)			
		「小売企業の海外展開における課題ー現地パートナーの役割ー」,『第10回貿易研究会「国際ビジネスにおける新動向ー新興国市場開発を中心として」』pp.195-202, 財団法人貿易奨励会(2011)			
		「小売企業の国際化における標準化ー適応化戦略についての一考察」『社会システム研究所紀要』第8巻, 第2号, pp.75-87, 崔在濬・臼井哲也・内堀敬則(2008) 中央学院大学社会システム研究所			
		「小売企業の国際的サプライチェーン構築と国際的パフォーマンスとの関係性についてー日系コンビニエンス・ストア企業を中心としてー」『商学研究論集』第27号, pp.271-282, (2007) 明治大学大学院			
	その他の研究活動	(学会報告)「国際マーケティング戦略が事業成果に及ぼす影響についての定量分析ーマーケティング・ケイパビリティと本社ー子会社間関係の調整効果ー」深澤琢也・鈴木仁里(2019) 多国籍企業学会第12回全国大会			
		(学会報告)Morikazu, H and Fukazawa, T(2016)“Seeing is believing: The influence of past experience on corporate advertising by global BtoB advertiser”, 2016 Global Marketing Conference at Hong Kong.			
		(学会報告)「消費者のロイヤルティプログラム活用実態に関するインタビュー調査」 田部溪哉, 深澤琢也, 広瀬盛一(2015) 日本商業学会第65回全国研究大会			
	6. 所属学会		Academy of International Business, 国際ビジネス研究学会, 多国籍企業学会, 異文化経営学会 日本商業学会, 日本貿易学会, 日本経営システム学会, 日本広告学会		
	7. 主な社会活動、資格、その他		ビジネスキャリア検定 営業分野 作問委員、代表者委員		

教員の業績				
職 名		准 教 授	学 位	商学博士
氏 名	カ ナ	フクヤマ トモキ	役 職 名	
	漢 字	福山 倫基		
1. プロフィール		埼玉大学経済学部経済学科卒業（経済学士） 一橋大学大学院商学研究科前期 会計・金融専攻（商学修士） 一橋大学大学院商学研究科後期 会計・金融専攻（商学博士）		
2. 主な担当科目		入門簿記、工業簿記、原価計算、管理会計、簿記技能、会計学		
3. 専門分野		原価計算・管理会計		
4. 主な研究テーマ		会計教育をゲーミフィケーションで実現した場合の効果測定 中小企業の業績評価に関する実態調査とその考察		
5. 主な研究業績	著書			
	論文	構造マトリクスによる原価モデルの研究(査読付) 修士論文 2010		
		グローバル時代のスマート意思決定支援システム—構造マトリクスをベースに—(共著) 第4回横幹連合コンファレンス 2011		
		構造マトリクスを中心とした情報技術と原価計算ロジックの計算法に関する考察(査読付)博士論文2013		
		Cost information practical use support by a cost accounting specialization type language(査読付) Asia Pacific Industrial Engineering and Management System Conference14 2013		
		原価計算特化型言語に内部モデルを適用する妥当性 第5回横幹連合コンファレンス 2013		
		構造マトリクスを適用した原価計算システムに対する評価の動向(査読付) 富士論叢2014		
		簿記初学者が図記号を用いて記録を行うことに関する影響の調査—分かりやすさと内発的動機付けの関係について—(査読付)(単著) 富士論叢 2016		
		原価計算の計算過程を図記号で説明することに関する考察—分かりやすさと内発的動機付けの関係について—(査読付)(単著) 会計教育学会誌 2016		
		『簿記未学者に対して開発したアクティブラーニング型講義を行うことを通した高校生の意識調査—学び方と学習の動機に関して—』(査読付)(研究ノート)(単著)富士論叢2017		
		『ICTを活用した教育支援システムの効果: Google Analyticsによるアクセス解析を中心として』(共著)(査読付)富士論叢2017		
		簿記初学者の課題演習時間に主体的学習支援環境を提供することによる影響の調査—自律性支援と内発的動機付けの関係について—(査読付)(単著) 東京富士論叢 2018		
	その他の研究活動	統計勉強会(一橋大学)		
		原価計算研究討論会		
		その他、学会発表など		
6. 所属学会		日本原価計算研究学会(IT幹事) 日本経営システム学会 日本会計教育学会		
7. 主な社会活動、資格、その他				


東京富士大学

教員の業績				
職名		教授	学位	商学修士
氏名	カナ	フジモリ ダイスケ	役職名	キャリア支援部長
	漢字	藤森 大祐		
1. プロフィール		明治学院大学大学院経済学研究科商学専攻 博士後期課程(単位取得満期退学)		
2. 主な担当科目		環境経営学、経営学、専門演習		
3. 専門分野		環境経営、地域活性化、観光ビジネス、ソーシャルビジネス		
4. 主な研究テーマ		グリーンサプライチェーンマネジメント、環境ビジネス、経営者の環境思想		
		地域イノベーション、森林資源の活用		
5. 主な研究業績	著書	『ステークホルダーの経営学』(共著) 中央経済社、2009年5月		
		『フォレット 経営学史叢書Ⅳ』(共著) 文真堂、2012年12月		
	論文	「M.P.フォレットの管理思想」(単著)、1993年、経営哲学論集9集		
		「日本企業における環境マネジメントシステム導入の動向と問題点」(単著)、信州短期大学研究紀要9巻1号、1997年7月		
		「中小企業におけるISO14000シリーズの導入について」(単著) 信州短期大学研究紀要10巻1・2合併号、1998年12月		
		「ゼロ・エミッションの意義と今後の課題」(単著)、経営哲学論集16集、2000年10月		
		「日立鉱山煙害問題における森林再生に関する一考察」(単著) 富士論叢第55巻第1号、2010年12月		
		「都心近郊の里山保全の取り組みに関する調査 -横沢入里山保全地域と飯能・西武の森を中心に-」(共著) 富士論叢第60巻第1号、2010年12月		
	その他の研究活動	「フクシマ後に考える原子力発電所の問題点」(単著)、富士論叢第56巻第1号、2011年12月		
6. 所属学会		日本経営学会、経営哲学学会、環境経営学会、日本マネジメント学会		
		日本労務学会、経営学史学会、日本観光研究学会		
7. 主な社会活動、資格、その他		新宿染色業活性化のための活動(「Shinjuku Re”和”style project」)		


東京富士大学

教 員 の 業 績

職 名		准教授	学 位	修士(経済学)
氏 名	カ ナ	マツダ タカシ	役 職 名	学生支援委員会委員長
	漢 字	松田 岳		
1. プロフィール		立教大学大学院経済学研究科経済学専攻博士課程後期課程(単位取得退学) (財)国際通信経済研究所、金融庁総務企画局政策課研究開発室金融研究研修センターを経て、2005年より現職		
2. 主な担当科目		金融論、経済学概論		
3. 専門分野		地域金融論、アメリカ経済論		
4. 主な研究テーマ		米国のコミュニティ開発金融の円滑化		
5. 主な研究業績	著書	『終わりなき世界金融危機：バブルレス・エコノミーの時代』、共著、2012年9月、岩波書店		
		『バブル・リレー：21世紀型世界恐慌をもたらしたもの』、共著、2009年2月、岩波書店		
	論文	「低所得コミュニティの生成と固定化に関する一考察」(研究ノート)共著、2016年3月、『富士論叢』第60巻第1号		
		「金融危機後の国際マネーフロー：欧米の銀行活動を中心に」共著、2013年11月、『富士論叢』第58巻第1号		
		「金融危機後の米国の州・地方財政」単著、2012年3月、『FUJI BUSINESS REVIEW』(東京富士大学総合研究所)第4号		
		「米国の商業用不動産貸出問題とその展望」「米国のコミュニティ開発金融とその支援策」, 単著、2012年3月、『FUJI BUSINESS REVIEW』(東京富士大学総合研究所)第4号		
		「世界金融危機後の米国金融システムの行方：不良債権問題を中心に」, 単著、2011年、『信用理論研究』(信用理論研究会)第29号		
		「米国のコミュニティ金融におけるCDFIの役割—金融アンバンドリングの観点から—」, 単著、2011年6月、『経済経営研究』(東義大・韓国)経済経営戦略研究所)第6巻第1号		
		「金融危機後米国の金融規制改革の有効性に関する一考察」, 単著、2010年3月、『FUJI BUSINESS REVIEW』(東京富士大学総合研究所)第2号		
		「金融取引への監督・規制強化は実現するか『未曾有の危機』のトラウマが癒える前に」, 単著、2009年10月、『世界』岩波書店、第796号、2009年10月号		
		「米国の金融資産バブルと国際マネーフロー」「米国住宅価格急騰の金融メカニズム」(査読論文), 単著、2009年3月、『FUJI BUSINESS REVIEW』(東京富士大学総合研究所)第1号		
		「地域内資金循環の円滑化—地域通貨と地域金融機関」, 単著、2007年10月、『季刊個人金融』(財団法人ゆうちょ財団)Vol.2、No.3、2007年秋号		
		「コミュニティ開発法人と地域活性化」, 単著、2006年2月、『信用組合』(社団法人全国信用組合中央協会)第53巻第2号、2006年2月号		
		「イタリアの地域・中小企業金融支援策の一側面—Artigiancassaへの現地調査を通じて—」, 単著、2005年11月、『FUJI ACCOUNTING REVIEW』(東京富士大学税務会計研究所)10号		
		「米独の金融自由化とセーフティ・ネットの展開」(査読論文), 共著、2004年12月、『FSAリサーチレビュー』(金融庁金融研究研修センター)Vol.1		
		「米独の預金保険制度の比較分析—破綻処理と規律付けを中心に—」, 共著、2004年3月、『成城大学経済研究所研究報告』, No.39		
6. 所属学会		日本金融学会、信用理論研究会 経済理論学会		

東京富士大学

教員の業績				
職 名		特任教授	学 位	商学士
氏 名	カ ナ	ミセキ キミオ	役 職 名	
	漢 字	三関 公雄		
1. プロフィール		早稲田大学 商学部卒業		
		税務大学校 研究部 教授（国際支援担当）		
		東京国税局 荏原税務署長を経て、2015年から現職		
2. 主な担当科目		（大 学）租税概論Ⅰ・Ⅱ （大学院）演習Ⅰ（法人税）、演習Ⅱ（法人税）、法人税研究Ⅱ、所得税研究Ⅱ		
3. 専門分野		国際課税、移転価格課税		
4. 主な研究テーマ		OECD租税委員会のBEPS (Base Erosion & Profit Shifting)プロジェクトについて		
5. 主な研究業績	著書	「令和5年版 法人税決算と申告の実務」大蔵財務協会、2023（分担執筆）		
		「令和4年版 法人税決算と申告の実務」大蔵財務協会、2022（分担執筆）		
		「令和3年版 法人税決算と申告の実務」大蔵財務協会、2021（分担執筆）		
		「令和2年版 法人税決算と申告の実務」大蔵財務協会、2020（分担執筆）		
		「令和元年版 法人税決算と申告の実務」大蔵財務協会、2019（分担執筆）		
		「平成30年版 法人税決算と申告の実務」大蔵財務協会、2018（分担執筆）		
		「BEPS文書作成マニュアル」大蔵財務協会、2017（共著）		
		「平成29年版 法人税決算と申告の実務」大蔵財務協会、2017（分担執筆）		
		「海外進出企業のための税務調査対応と文書化の実務」大蔵財務協会、2015（共著）		
		「国際税務要覧」財経詳報社、1991（分担執筆）		
	論文	「天然ガス指向を強める最近の中国」「石油/天然ガスレビュー」、2000年6月号		
その他の研究活動				
6. 所属学会		日本税法学会		
7. 主な社会活動、資格、その他		カンボジア租税総局（カンボジア国税庁）の能力強化プロジェクトに、JICA（独立行政法人 国際協力機構）専門家として現地において貢献 税理士（東京税理士会会員） 日本商工会議所主催簿記検定一級		


東京富士大学

教員の業績

職 名		准教授	学 位	修士(経営学)
氏 名	カ ナ	ミツザワ ミメ	役 職 名	キャリア支援委員会委員長
	漢 字	光澤 美芽		

1. プロフィール		横浜国立大学 国際社会科学研究科博士課程前期修了(経営学修士)
		博士課程後期単位取得退学
2. 主な担当科目		入門簿記Ⅰ・Ⅱ
		会計学Ⅰ・Ⅱ、財務諸表論
3. 専門分野		財務会計
4. 主な研究テーマ		研究開発費および無形資産
5. 主な研究業績	著書	「セグメント情報」齋藤真哉編著『ニューベーシック連結会計』中央経済社
	論文	「R&D支出の資産計上可能性」『産業経理』第69巻第3号、200-210頁 2009年10月
		「米国におけるR&Dに関する会計処理の変遷とその背景—SFAS2公表以前を中心として—」『横浜国際社会科学研究』第15巻第1・2号、65-78頁 2010年8月
		「R&Dの資産性認識」『横浜国際社会科学研究』第8巻第5号、133-148頁 2012年1月
		「SFAS2設定の経緯の議論と背景—FASB討議資料に対するコメントの整理を中心として—」(研究ノート)『富士論叢』第61巻第1号、1-19頁 2017年3月
その他の研究活動		
6. 所属学会		
7. 主な社会活動、資格、その他		日本会計研究学会
		国際会計学会
		管理会計学会

教員の業績				
職名		教授	学位	法学士
氏名	カナ	ヤマカワ サトル	役職名	自己点検推進室室長
	漢字	山川 悟		兼IR推進室室長
1. プロフィール		法政大学法学部政治学科卒業後、(株)日本経済社、(株)NTTアド勤務を経て、2008年4月より現職 東京富士大学経営学研究所所長(2017年4月～2022年3月) 東京富士大学キャリア支援部長(2013年4月～2020年3月)、学部長・学務部長(2020年4月～2021年2月)		
2. 主な担当科目		マーケティング論、ブランド経営論(中小企業論) 専門演習ⅠⅡ、プロフェッショナル・セミナーⅠⅡ		
3. 専門分野		マーケティング論、創造性開発、ブランド論、コンテンツビジネス論		
4. 主な研究テーマ		文化メソッド(遊び、物語、笑い、アート、モダリティ)のマーケティング研究 創造性支援ツールの開発に関する研究 ブランド・エンゲージメント研究		
5. 主な研究業績	著書	『応援される会社 熱いファンがつく仕組みづくり』(光文社 /2018.1=共著)		
		『社会心理学における説得と交渉』(三恵社 /2012.3=共著)		
		『コンテンツがブランドを創る』(同文館出版 /2011.9=共著)		
		『不況になると口紅が売れる』(毎日コミュニケーションズ /2009.9=単著)		
		『創発するマーケティング』(日経BP社 /2008.3=共著)		
		『事例でわかる物語 マーケティング』(日本能率協会コンサルティング /2007.9=単著)		
		『企画のつくり方入門』(かんき出版 /2006.9=単著)		
		『コンテンツマーケティング ～物語型商品の市場法則を探る』(同文館出版 /2004.6=共著)		
	論文	「ボードゲームの育むジェネリック・スキルについての考察」説得交渉学研究 (13) 2021年12月 単著		
		「環境啓発ボードゲームの開発と次世代参加型教育の試み」説得交渉学研究 (12) 2020年12月 共著		
		商業高校生向けプロジェクト学習の実践を通じたマーケティング入門教育のあり方に関する考察 説得交渉学研究(11) 2019年12月 単著		
		「アニメ作品の受容における視聴者側の知識に関する考察」説得交渉学研究 (10) 2018年10月 単著		
		「クロスモダリティを活用したマーケティング」説得交渉学研究 (9) 2017年10月 単著		
		「説得能力を問う就職試験に対する創造技法からのアプローチ」説得交渉学研究 (8) 2016年10月 単著		
		「創作文化としての詰将棋発展史 ～伊藤宗印の改革と在野棋客の影響力を中心に」遊戯史研究 28 2016年10月 単著		
		「感覚モダリティのデザインとこれからの広告」日経広告研究所報286 2016年4月 単著		
		「大学生の能力開発のためのアーキテクチャ設計に関する基礎的研究」富士論叢 第59巻 2014年 共著		
		「ゲームメソッドのマーケティング活用に関する考察」(「フジ・ビジネスレビュー」2013.3)単著		
		「わが国における音楽活用マーケティングの現状と可能性」(「フジ・ビジネスレビュー」2012.3)単著		
		「オーディエンスにとっての経験プラットフォーム構築を目指して」(「フジ・ビジネスレビュー」2011.3)単著		
		「ブランデッド・コンテンツの効果に関する考察」(「日経広告研究所報252号」2010.8～9)単著		
	海外翻訳出版物	『CONTENT MARKETING』(「コンテンツマーケティング」韓国版翻訳TIME OF WHEEL /2009.4共著)		
		『図解企画案撰寫入門』(「企画のつくり方入門」台湾版翻訳 商周出版 /2009.1=単著)		
6. 所属学会		日本広告学会、日本創造学会、日本説得交渉学会		
7. 主な社会活動、資格、その他		都立商業高校合同学習「東京プランニングラボ」インストラクター 日本学生ゼミナール「インナー大会」審査員、東京都生徒商業研究発表大会審査員 読売新聞 大学生マーケティングコンペティション審査員、日本説得交渉学会理事		

東京富士大学